

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	お客様を美しくすることで感謝される人材・サロンを活性化させ、社会貢献できる人材を目指す。				
到達目標	就職100%				
評価基準	授業態度40%・提出物40%・試験20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	今村 文美	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明・就職活動の心得・評価基準の説明
2	就職活動をスタートするにあたって①	学校のルール・内定までのスケジュール・職種アンケート実施
3	就職活動をスタートするにあたって②	募集要項に書いてあることの意味を知る
4	自分に合ったサロン選び①	自己分析・情報収集・企業リサーチ
5	自分に合ったサロン選び②	自己分析・情報収集・企業リサーチ
6	自分に合ったサロン選び③	自己分析・情報収集・企業リサーチ
7	模擬面接①	質問回答内容作成
8	模擬面接②	集団面接練習①
9	模擬面接③	集団面接練習②

10	模擬面接④	集団面接練習③
11	模擬面接⑤	グループディスカッション①
12	模擬面接⑥	グループディスカッション①
13	模擬面接⑦	グループディスカッション①
14	まとめ	面接について
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	お客様を美しくすることで感謝される人材・サロンを活性化させ、社会貢献できる人材を目指す。				
到達目標	就職100%				
評価基準	授業態度40%・提出物40%・試験20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	今村 文美	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	目標設定①	将来のビジョン設定
2	目標設定②	将来のビジョン設定
3	目標設定③	将来のビジョン設定
4	目標設定④	将来のビジョン設定
5	社会人の心得①	美容業界マナー
6	社会人の心得②	敬語について①
7	社会人の心得③	敬語について②
8	社会人の心得④	敬語について③
9	社会人の心得①	ビジネスメールについて①

10	社会人の心得①	ビジネスメールについて②
11	社会人の心得①	美容業界で長く活躍するために①
12	社会人の心得①	美容業界で長く活躍するために②
13	社会人の心得①	美容業界で長く活躍するために③
14	まとめ	社会人の心得について
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	シャンプークロス・シャンプー・トリートメント 国家試験実技教材一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	シャンプー技術を学ぶことにより美容業の幅広い知識を習得する。				
到達目標	各技術の基礎定着				
評価基準	小テスト30% 試験30% 授業態度20% 提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	名嶋 絵梨子	実務経験	○		
実務内容	美容師。現場での経験を活かして即戦力となる考え方や技術を生徒へ教示する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	シャンプー	シャンプーの基礎・掃除の仕方
2	シャンプー	相モデルシャンプー実習
3	シャンプー	相モデルシャンプー実習
4	シャンプー	相モデルシャンプー実習
5	シャンプー	相モデルシャンプー実習
6	シャンプー	相モデルシャンプー実習
7	シャンプー	相モデルシャンプー実習
8	シャンプー	相モデルシャンプー実習
9	シャンプー	相モデルシャンプー実習

10	シャンプー	相モデルシャンプー実習
11	シャンプー	相モデルシャンプー実習
12	シャンプー	相モデルシャンプー実習
13	シャンプー	相モデルシャンプー実習
14	シャンプー	相モデルシャンプー実習
15	シャンプー	相モデルシャンプー実習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	シャンプークロス・シャンプー・トリートメント 国家試験実技教材一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	シャンプー技術を学ぶことにより美容業の幅広い知識を習得する。				
到達目標	各技術の基礎定着				
評価基準	小テスト30% 試験30% 授業態度20% 提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	名嶋 絵梨子	実務経験	○		
実務内容	美容師。現場での経験を活かして即戦力となる考え方や技術を生徒へ教示する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 国家試験実技課題	スケジュール確認 ワインディング・オールウェーブ・カット
2	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
3	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
4	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
5	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
6	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
7	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
8	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
9	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット

10	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
11	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
12	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
13	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
14	国家試験実技課題 まとめ	ワインディング・オールウェーブ・カット
15	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストヘアⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘアⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ・クランプ・ダックカール・ブラシ類・アイロン		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	カット・カラー・パーマなど美容の技術を総合的に学び、個々の想像力を豊かにする。				
到達目標	各技術の基礎定着				
評価基準	小テスト30% 試験30% 授業態度20% 提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	東房 真由	実務経験		○	
実務内容	美容師。現場での経験を活かして即戦力となる考え方や技術を生徒へ教える。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション カラー知識	コンテストヘアで学ぶ内容、ルール、カラー知識
2	カラー塗布	カラー剤を使用しカラー塗布を学ぶ
3	カラー塗布	カラー剤を使用しカラー塗布を学ぶ
4	カラー塗布	カラー剤を使用しカラー塗布を学ぶ
5	カット	国家試験カット以外のスタイル
6	カット	国家試験カット以外のスタイル
7	カット	国家試験カット以外のスタイル
8	パーマ	パーマ理論、サロンスタイルパーマ
9	パーマ	パーマ理論、サロンスタイルパーマ

10	パーマ	パーマ理論、サロンスタイルパーマ
11	ウィッグ作成	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
12	ウィッグ作成	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
13	ウィッグ作成	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
14	ウィッグ作成、まとめ	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
15	ウィッグ作成	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストヘアⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘアⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ・クランプ・ダックカール・ブラシ類・アイロン		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	カット・カラー・パーマなど美容の技術を総合的に学び、個々の想像力を豊かにする。				
到達目標	各技術の基礎定着				
評価基準	小テスト30% 試験30% 授業態度20% 提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	東房 真由	実務経験		○	
実務内容	美容師。現場での経験を活かして即戦力となる考え方や技術を生徒へ教示する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 作品作り	スケジュール確認、作品作り（ウィッグもしくは人頭）
2	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
3	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
4	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
5	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
6	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
7	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
8	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
9	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）

10	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
11	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
12	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
13	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
14	作品作り、まとめ	作品作り（ウィッグもしくは人頭）
15	作品作り	作品作り（ウィッグもしくは人頭）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストメイクⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイクⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク教材一式/撮影教材		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	コンテストを意識し、提案力を高め、実際の現場を意識したメイクアップ技術を実践できるようにする。				
到達目標	メイクの基礎知識・基礎技術を理解し、テーマに合わせたフルメイクができる。				
評価基準	実技試験50% 提出物30% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	原口 和也 他1名	実務経験	○		
実務内容	美容師として活動後、メイクを学ぶために外資系化粧品会社数社を経験。アーティスト活動を経てヘアメイクアーティストとし独立。撮影やショーでのヘアメイク事業とセミナー教育を中心とした事業を立ち上げた経験を基に教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション フルメイク①	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認 ナチュラルメイク（導入）
2	フルメイク②	モデルに合わせたナチュラルメイク（デッサンシート作成・実践）
3	フルメイク③ ブライダルメイク①	モデルに合わせたナチュラルメイク（実践） WD用ブライダルメイク（導入）
4	ブライダルメイク②	WD用ブライダルメイク（デッサンシート作成・実践）
5	ブライダルメイク③ ブライダルメイク④	WD用ブライダルメイク（実践・小テスト） CD用ブライダルメイク（導入・デッサンシート）
6	ブライダルメイク⑤	CD用ブライダルメイク（実践）
7	スチールメイク①	フォトコンで行うメイク制作（導入・デッサンシート作成）
8	スチールメイク②	フォトコンで行うメイク制作（実践）
9	スチールメイク③	フォトコンで行うメイク制作（実践）

10	スチールメイク④	フォトコンで行うメイク制作（テスト）
11	舞台メイク①	舞台の男役メイク（導入・デッサンシート作成・実践）
12	舞台メイク②	舞台の男役メイク（実践）
13	舞台メイク③	舞台の女役メイク（導入・デッサンシート作成・実践）
14	舞台メイク④	舞台の女役メイク（実践）
15	総合実習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストメイクⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク教材一式/撮影教材		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	コンテストを意識し、提案力を高め、実際の現場を意識したメイクアップ技術を実践できるようにする。				
到達目標	メイクの基礎知識・基礎技術を理解し、テーマに合わせたフルメイクができる。				
評価基準	実技試験50% 提出物30% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	原口 和也 他1名	実務経験	○		
実務内容	美容師として活動後、メイクを学ぶために外資系化粧品会社数社を経験。アーティスト活動を経てヘアメイクアーティストとし独立。撮影やショーでのヘアメイク事業とセミナー教育を中心とした事業を立ち上げた経験を基に教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	白塗り	説明・デモ・デッサンシート作成・実践
2	白塗り①	相モデル実習①
3	白塗り②	相モデル実習②
4	模写メイク①(傷メイク含)	説明・デモ・デッサンシート作成・実践
5	模写メイク②(傷メイク含)	相モデル実習②
6	キャラクターメイク①	説明・デッサンシート作成・実践
7	キャラクターメイク②	相モデル実習
8	トレンドメイク①	説明・デモデッサンシート作成
9	トレンドメイク②	相モデル実習

10	まとめ	相モデル実習
11	まとめ	相モデル実習
12	作品制作①	グループ分け・デッサンシート作成 * 3人1グループとなり担当制で施術 * ヘアメイク同時進行で60分仕上げ
13	作品制作②	
14	作品制作③	
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアデザイン		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアデザイン		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	各校就職ガイドBOOK		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職の心構えや企業のエントリー方法を知る。 面接や内定後までの流れを知る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の流れを理解する。 ・魅力的な履歴書の書き方を習得する。 ・面接方法が実践できる。 				
評価基準	授業態度30%・提出物40%・面接30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	キャリアデザインⅠ-Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	今村 文美	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職活動について	2年間の就職活動の流れを把握する
2	業界の仕事について	業界について理解する
3	関連企業について	企業について調べ把握する
4	自己分析①	自己分析方法を学び、実際に自己分析を行う
5	自己分析②	自己分析方法を学び、実際に自己分析を行う
6	自己PR①	自己PRの書き方を学び、作成する
7	自己PR②	自己PRの書き方を学び、作成する

8	履歴書について①	履歴書を作成する
9	履歴書について②	履歴書を作成する
10	身だしなみについて①	就職活動における身だしなみを理解する
11	身だしなみについて②	就職活動における身だしなみを理解する
12	面接対策	面接の流れ、面接の種類、ポイントを学ぶ
13	面接練習①	模擬面接を実施する
14	面接練習②	模擬面接を実施する
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科		1	15
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)		出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分をも身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。 				
評価基準	試験：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	「未来デザインプログラム」とは何か学ぶ 夢のスケッチブックの使い方を学ぶ
2	SANKOワークコンピテンス	SANKOワークコンピテンスの理解を深める
3	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
4	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
5	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
6	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
7	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
8	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
9	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なことは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけでなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科		1	15
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)		出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分に身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。 				
評価基準	試験：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
3	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
4	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
5	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを知る
6	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
7	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
8	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
9	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する

10	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
11	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
12	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
13	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
14	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
15	2年生に向けて	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	皮膚学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	皮膚学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅰ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	皮膚の働きの仕組みを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ。 皮膚の基礎知識・美容上大切な皮膚の6つの働きを知る。 皮膚の生理作用・肌の美しさを損ねる要因を知る。				
到達目標	肌を美しく健康に保つためのスキンケアの方法をクライアントに提案することができる。				
評価基準	筆記試験60%・小テスト20%・授業態度、提出物など20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	生理学Ⅰ・ベーシックエステⅠ・ベーシックネイルⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石塚 順子	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして30年勤務をした実務経験を基に、皮膚の働きの仕組みやスキンケアの方法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	皮膚学Ⅰオリエンテーション 皮膚の基礎知識 ①	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標について解説 1. 生体における皮膚の役割 2. 皮膚の構造と働き (1)～(2)
2	皮膚の基礎知識 ②	2. 皮膚の構造と働き (2) (3) 肌理について
3	皮膚の基礎知識 ③	2. 皮膚の構造と働き (4)
4	皮膚の基礎知識 ④	2. 皮膚の構造と働き (5) 皮脂腺・立毛筋
5	皮膚の基礎知識 ⑤	2. 皮膚の構造と働き (5) 立毛筋 (6) (7)
6	皮膚の基礎知識 まとめ 筆記テスト	成績評価①皮膚の基礎知識(断面図・名称) グループ 成績評価②筆記テスト

7	美容上大切な6つの働き ①	1、皮脂膜 2、角質バリア
8	美容上大切な6つの働き ②	3、表皮ターンオーバー 4、メラノサイトの働き
9	美容上大切な6つの働き ③	5、毛細血管の働き 6、繊維芽細胞 7、皮膚の働きのバランス テスト返却 成績評価③美容上大切な6つの働き まとめ(ワーク)
10	皮膚の生理作用 ①	皮膚の生理作用(1)～(6)保護・体温調節・分泌・吸収
11	皮膚の生理作用 ②	皮膚の生理作用(7)～(9)ビタミンD合成・貯蔵・知覚/テスト対策
12	筆記テスト 肌の美しさを損ねる要因 ①	成績評価④ 筆記テスト 美容上大切な6つの働き 1、紫外線
13	肌の美しさを損ねる要因 ②	2、寒気 3、乾燥 4、加齢
14	肌の美しさを損ねる要因 ③	5、女性のリズム 6、精神的ストレス 7.胃の不調 8、生活習慣 小テスト
15	総合授業	総合復習 まとめグループ 前期総復習(個人)

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	皮膚学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	皮膚学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅰ		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	皮膚の働きの仕組みを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ。 肌の美しさを損ねる要因・様々な肌状態・肌と環境・肌分析について知る。 免疫やアレルギー、様々な皮膚疾患について知る。				
到達目標	さまざまな肌状態をチェックすることができ、トラブルの原因を説明できる。				
評価基準	筆記試験①②60%・小テスト20%・授業態度、提出物など20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	生理学Ⅱ・プロフェイシャルⅠ(エステ)・ベーシックエステⅡ(メイク) フェイシャル&ボディⅠ(トータルビューティー)・ベーシックネイルⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石塚 順子	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして30年勤務をした実務経験を基に、皮膚の働きの仕組みやスキンケアの方法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	皮膚学Ⅱオリエンテーション	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標について解説 前期の振り返り 小テスト成績評価対象
2	さまざまな肌状態 1	1. 肌意識の年代変化 2. 美しい肌
3	さまざまな肌状態 2	3. 衰えた肌
4	さまざまな肌状態 3	4. 色素沈着を起こした肌①
5	さまざまな肌状態 4	4. 色素沈着を起こした肌②
6	さまざまな肌状態 5 筆記テスト	筆記テスト① 成績評価① / 5. ニキビ①
7	さまざまな肌状態 6	5. ニキビ②
8	さまざまな肌状態 7	テスト返却 / ニキビ③

9	さまざまな肌状態 / 肌と環境	6. 肌荒れと敏感 1. 肌と地域気候 2. 肌と気象の季節区分
10	肌分析 ・ 筆記テスト	筆記テスト②成績評価② 1. 目的 2. 肌分析を行う上で考慮すべきポイント 3. 肌質チェック項目
11	肌分析	4. 肌タイプ / 肌分析 (実践) 小テスト成績評価対象
12	免疫・アレルギーについて	テスト返却/免疫とは (免疫細胞の種類、免疫システム) / アレルギー
13	様々な皮膚疾患	様々な皮膚疾患 肌分析/肌トラブル (研究)
14	肌分析/肌トラブル (研究)	肌分析/肌トラブル (発表) 成績評価対象
15	総合授業	総合授業を行う ※メイクコース・ネイルコースは総復習を行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生理学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	生理学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅰ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する。 骨格系・筋系・神経系について知る。				
到達目標	体を美しく健康に保つためのボディケアの方法をクライアントに提案することができる。				
評価基準	筆記試験①②60%・小テスト20%・授業態度(グループワークor課題作成)、提出物など20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	皮膚学Ⅰ・ベーシックエステⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宇野 文美代	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして15年勤務をした実務経験を基に、皮膚の働きの仕組みやスキンケアの方法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	生理学Ⅰオリエンテーション 生命と適応進化の歴史 生命活動とホメオスタシス 1	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標について解説 1. 生命とは 2. 生命40億年／はるかな旅 3. 生命の適応進化とエステティック 1. ホメオスタシスの定義と発見 2. ホメオスタシスの実際
2	生命活動とホメオスタシス 2	3. ホメオスタシスの具体例 ホメオスタシスを制御する仕組み
3	生命活動とホメオスタシス 3	ホメオスタシスを乱すストレス
4	身体の基本 1	ホメオスタシスを乱すストレス (小テスト) 1. 身体の構成
5	身体の基本 2	1. 身体の構成 2. 身体の設計図 3. 身体を構成する物質 4. 血液 物質運搬
6	身体の基本 3	4. 血液 物質運搬 筆記試験範囲まとめ / グループワークor課題作成(成績評価対象)

7	骨格系・筋系 1 ・ 筆記試験	成績評価①筆記試験 / 1. 体区分 2. 骨格 (1) ①骨の役割
8	骨格系・筋系 2	2. 骨格 (1) ②骨の構造と代謝 ③関節 ④骨格の構成 (頭蓋骨)
9	骨格系・筋系 3	2. 骨格 (1) ④骨格の構成 (脊柱・胸骨・上肢骨・下肢骨・骨盤)
10	骨格系・筋系 4	3. 筋系 (2) ①筋肉の役割 ②筋肉の種類 ③骨格筋 ④骨格筋の構成 ⑤速筋と遅筋
11	骨格系・筋系 5	3. 筋系 (2) ④骨格筋の構成 ⑤速筋と遅筋 筆記試験範囲 まとめ / グループワークor課題作成(成績評価対象)
12	神経系 1 ・ 筆記試験	成績評価② 筆記試験 1. 神経細胞 2. 神経系の種類
13	神経系 2	3. 中枢神経 (1) - (4)
14	神経系 3	4. 末梢神経
15	総合授業	総まとめを行う 復習問題 小テスト

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生理学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	生理学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅰ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する。 感覚・内分泌系・呼吸器系・循環器系・消化器系・生殖器系・泌尿器系について知る。				
到達目標	さまざまな体質・体型・状態をチェックすることができ、トラブルの原因を説明できる。				
評価基準	筆記試験①②60%・小テスト20%・授業態度(グループワーク)、提出物など20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	皮膚学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ(エステ)・プロボディⅠ(エステ)・ベーシックエステⅡ(メイク)・フェイシャル&ボディⅠ(トータルビューティー)・プロフェイシャルⅠ、サロンマナーⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宇野 文美代	実務経験		○	
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして15年勤務をした実務経験を基に、皮膚の働きの仕組みやスキンケアの方法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	生理学Ⅱオリエンテーション 末梢神経	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標について解説 前期の振り返り 神経系 1. 感覚～外界情報の収集 (1) - (2)
2	感覚	1. 感覚～外界情報の収集 (4)
3	内分泌系 1	1. 内分泌系の役目 2. 各内分泌腺とホルモンの種類 (1)
4	内分泌系 2	2. 各内分泌腺とホルモンの種類 (2) - (7)
5	筆記試験 / 呼吸器系	筆記試験① 成績評価① 1. 呼吸のあらまし 2. 外呼吸と内呼吸 3. 呼吸器の構造 4. 呼吸運動
6	循環器系 1	1. 心臓の構造 2. 血液循環 (1) - (4)
7	循環器系 2	3. 心臓の興奮伝達系 4. 血管の種類と構造 5. リンパ系 (1) (2) ①②
8	循環器系 3	5. リンパ系 (2) ③④ ~ (5)
9	循環器系 3	循環器系 まとめ 復習問題

10	循環器系 4	循環器系 まとめ 小テスト
11	消化器系 1	1. 消化作用 2. 消化器系の構成 (1) - (4)
12	消化器系 2	2. 消化器系の構造 (5) - (7)
13	試験 / 泌尿器系	筆記試験② 成績評価③ 1. 腎臓とは (1)
14	泌尿器系 / 生殖器系	1. 腎臓とは (2) (3) 2. 副腎とは 1. 月経のメカニズム 2. 妊娠 3. 胚葉分化
15	総合授業	総まとめを行う 感覚/内分泌系/呼吸器系/消化器系 まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	化粧品学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	化粧品学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅱ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。 化粧品概論・ネイル、メイク、ヘアケア化粧品・フレグランス・化粧品の原料について知る。				
到達目標	化粧品の基礎知識を理解し、安全に使用することができる。				
評価基準	筆記試験①②60%・小テスト20%・授業態度、提出物など20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	ベーシックエステⅠ・ベーシックメイクⅠ・ベーシックネイルⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡崎 由佳	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして20年勤務をした実務経験を基に、化粧品の主な原料や法律上の扱いを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	化粧品学Ⅰ オリエンテーション	オリエンテーション
2	化粧品概論 1	1. 化粧品・医薬部外品と薬機法
3	化粧品概論 2	2. 化粧品の分類
4	化粧品概論 3	3. 化粧品の品質と品質保証
5	化粧品概論 4	4. 化粧品の取り扱い上の留意点
6	化粧品概論 5	まとめ
7	筆記試験	化粧品概論 成績評価①
8	メイクアップ化粧品 1	1. メイクアップ化粧品の目的と働き 2. ベースメイクアップ料 3. ポイントメイクアップ料

9	メイクアップ化粧品 2	着色料について
10	ネイル化粧品	1. ネイル化粧品の目的と働き 2. ネイルポリッシュ 3. ポリッシュリムーバー
11	ヘアケア化粧品	1. ヘアケア化粧品の目的と働き 2. 洗髪料 3. 育毛料 4. ヘアスタイリング料 5. トリートメント長 6. パーマメントウェーブ料 7. 染毛料、ヘアブリーチ
12	フレグランス	1. フレグランスの目的と働き 2. 女性用香水 香水以外のフレグランス商品
13	まとめ	メイクアップ化粧品・ネイル化粧品・ヘアケア化粧品・フレグランス総合まとめ
14	筆記試験	メイク・ネイル・ヘアケア化粧品・フレグランス 成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	化粧品学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	化粧品学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅱ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。 ・フェイシャル、ボディ化粧品・化粧品の原料・化粧品に用いられる薬剤とその働きについて知る。				
到達目標	化粧品の基礎知識を理解し、安全に使用することができる。				
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	エステティックカウセリング(エステ)・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ(エステ)・ベーシックⅡ(メイク)				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡崎 由佳	実務経験		○	
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして20年勤務をした実務経験を基に、化粧品の主な原料や法律上の扱いを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション 前期の振り返り
2	フェイシャル化粧品 1	1. フェイシャル化粧品の目的と働き 2. 洗顔化粧品
3	フェイシャル化粧品 2	3. 整肌化粧品
4	フェイシャル化粧品 3	4. 賦活化粧品
5	ボディ化粧品 1	1. ボディ化粧品の目的と働き 2. 洗浄料
6	ボディ化粧品 2	3. シェイプアップ料 4. サンケア料
7	ボディ化粧品 3	5. 制汗・防臭料 6. 浴用料 7. 脱毛料
8	筆記試験	フェイシャル・ボディ化粧品 成績評価①
9	化粧品の原料 1	1. 化粧品の使用目的と剤型タイプの特徴 2. 水性原料 3. 保湿剤

10	化粧品の原料 2	4. 油性原料
11	化粧品の原料 3	5. 界面活性剤 6. 高分子化合物 7. 着色料 8. 香料
12	化粧品に用いられる薬剤とその働き 1	1. 紫外線カット剤 2. 酸化防止剤 3. 防腐防カビ剤
13	化粧品に用いられる薬剤とその働き 2	4. 美白剤 5. 肌荒れ防止剤など 6. ニキビ用薬剤 7. 制汗防臭剤 化粧品の原料 薬剤とその働き
14	筆記試験	化粧品の原料 薬剤とその働き 成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	エステティック概論Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅲ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を学ぶ。 法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準と衛生管理・感染症について理解する。				
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる。				
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石塚 順子	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして30年勤務をした実務経験を基に、エステティックに関わる法律を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション エステティックの概念	オリエンテーション 1. エステティックとは何か 2. 内面美容としてのエステティック
2	エステティックの本質と領域 1	1. エステティックの語源と歴史
3	エステティックの本質と領域 2	2. エステティックの領域
4	ソワンエステティック 1	1. ソワンエステティックの語源 2. 目的と期待される効果
5	ソワンエステティック 2	3. スキンタッチの重要性 4. 五感美容
6	美と健康 エステティシャンとしての心構え	1. 健康美は心身のバランスから 2. ウェルネス 3. アンチエイジング 1. エステティシャンの資質 2. ホスピタリーマインドの意義
7	日本のエステティック 世界のエステティック	1.日本のエステティック 2.世界のエステティック
8	筆記試験	エステティックの概念～エステティシャンの心構え 成績評価①
9	公衆衛生	1. 公衆衛生とは 2. 世界における公衆衛生の歴史 3. 日本における公衆衛生の歴史

10	衛生管理 1	1. 衛生管理全般 2. 消毒方法の種類とその基本的な使用法
11	衛生管理 2	3. 消毒の準備・用具 4. 施術に関わるものの消毒方法
12	感染症 1	1. 感染のメカニズム
13	感染症 2	2. エステティックに関連する感染症
14	筆記試験	前期総合 成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	エステティック概論Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新エステティック学 理論編Ⅱ・エステティシヤンのための関連法規 エステティック概論・サロンでの衛生消毒		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を学ぶ。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。 経済行為、人の身体に直接関連する法律について理解する。				
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる。				
評価基準	筆記試験①②60%・小テスト20%・授業態度、提出物など20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	認定エステティシヤン・上級認定エステティシヤン 認定フェイシャルエステティシヤン 認定ボディエステティシヤン				
関連科目	エステティックカウンセリングⅠ・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宇野 文美代	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシヤンとして15年勤務をした実務経験を基に、エステティックの基本知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 前期復習※エステ実習の為	オリエンテーション 前期の振り返り 3. 消毒の準備・用具 4. 施術に関わるものの消毒方法
2	衛生管理・衛生管理の実践	1. 手指の衛生措置 2. 手指の洗浄と消毒 3. 消毒剤の効果と特徴
3	関連法規関連法規 「法」の基礎知識 1	1. 社会生活と「法」 2. 法とは社会規範 3. 法の強制力 4. 法の原則
4	関連法規関連法規 「法」の基礎知識 2	5. 日本の資格制度 6. エステティックと法律
5	消費者保護 1	1. 消費者政策 2. エステティックに関連する消費者トラブル
6	消費者保護 2	3. トラブル対応の心得
7	人の身体に直接関連する法律 1	1. 四つの衛生法規 2. エステティックに関わりの深い衛生法規
8	人の身体に直接関連する法律 2	テスト範囲まとめ

9	筆記試験	成績評価① 消費者保護・人の身体に直接関連する法律・法の基礎知識の範囲
10	エステティック業界の 統一自主基準 1	1. 自主基準策定の目的 2. エステティックの定義
11	エステティック業界の 統一自主基準 2	3. 日本エステティック振興協議会の倫理綱領 4. サロン遵守事項
12	経済行為に関する法律 1	1. 商法 2. 集客 3. 個人情報の保護に関する法律
13	経済行為に関する法律 2	6. 消費者契約法 7. 特定商取引に関する法律 8. 割賦販売法
14	筆記試験	成績評価② エステティック業界の統一自主基準～経済行為に関する法律
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	デッサン・イラストレーション		
必修選択	選択	(学則表記)	デッサン・イラストレーション		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	スケッチブック 鉛筆 (H HB B 2B 3B) 練りゴム カッター 30cm定規 色鉛筆		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	観察力と洞察力を養い、芸術についての理解を深める。				
到達目標	基本的な形や人体を描くことで、人体の構造について理解ができる。 エステやネイル、メイクやヘアのデザインを理解できる。				
評価基準	試験40%、提出物40% 授業態度等20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	和田 夏子	実務経験	○		
実務内容	13年間、デザイン会社に勤務しデザイン・イラスト制作に携わる。 現在はフリーランスの講師とイラストレーターとして活動し、その知識・経験を基に指導する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	デッサンとは 鉛筆の基本的な使い方	デッサンの必要性について 用具使用方法と鉛筆の削り方、グラデーション練習
2	基本的な形態の描き方	基本的な形の描き方について
3	人体の描き方①	パーツの描き方について
4	人体の描き方②	顔と髪型の描き方について
5	人体の描き方③	人体の書き方について
6	基本的な形態の描き方 (色彩)	色相・彩度・明度を混色で理解する、グラデーション練習
7	色彩実験とグラデーション練習	着色について
8	模写と着色①	デザインを考案し着色する
9	平面構成①	コラージュやデザインなどいろいろな表現方法、技法について

10	平面構成②	コラージュやデザインなどいろいろな表現方法、技法について
11	平面構成③	コラージュやデザインなどいろいろな表現方法、技法について
12	作品制作①	これまでの学習を基本にヘアデザインや衣装等を含めてデザインを考案・作成
13	作品制作②	これまでの学習を基本にヘアデザインや衣装等を含めてデザインを考案・作成
14	作品制作③	これまでの学習を基本にヘアデザインや衣装等を含めてデザインを考案・作成
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	検定対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	検定対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	3	45
使用教材	エステ・メイク・ネイル用具一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	検定の合格を目指すための知識・技能を習得する。				
到達目標	検定の取得及びサロンワークで通用する基礎技術を習得することができる。				
評価基準	検定結果30%・授業態度他10%・筆記試験30%・授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	認定フェイシャルエステティシャン、認定ボディエステティシャン、メイクアップ検定ベーシック、JNECネイリスト検定3級・2級				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅡ、検定メイクⅠ、ベーシックメイクⅠ、ベーシックメイクⅡ ベーシックネイルⅠ、ベーシックネイルⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	原田 実保	実務経験	○		
実務内容	都内ネイルサロンに日本ネイリスト協会常任本部認定講師として25年勤務した経験を基に、検定取得のために必要なネイル技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	試験対策	筆記・実技対策
2	試験対策	筆記・実技対策
3	試験対策	筆記・実技対策
4	試験対策	筆記・実技対策
5	試験対策	筆記・実技対策
6	試験対策	筆記・実技対策
7	試験対策	筆記・実技対策
8	試験対策	筆記・実技対策

9	試験対策	筆記・実技対策
10	試験対策	筆記・実技対策
11	試験対策	筆記・実技対策
12	試験対策	筆記・実技対策
13	試験対策	筆記・実技対策
14	試験対策	筆記・実技対策
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	検定対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	検定対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	3	45
使用教材	エステ・メイク・ネイル用具一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	検定の合格を目指すための知識・技能を習得する。				
到達目標	検定の取得及びサロンワークで通用する基礎技術を習得することができる。				
評価基準	検定結果30%・授業態度他10%・筆記試験30%・授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	認定フェイシャルエステティシャン、認定ボディエステティシャン、メイクアップ検定ベーシック、JNECネイリスト検定3級・2級				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅡ、検定メイクⅠ、ベーシックメイクⅠ、ベーシックメイクⅡ ベーシックネイルⅠ、ベーシックネイルⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	原田 実保	実務経験	○		
実務内容	都内ネイルサロンに日本ネイリスト協会常任本部認定講師として25年勤務した経験を基に、検定取得のために必要なネイル技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	試験対策	筆記・実技対策
2	試験対策	筆記・実技対策
3	試験対策	筆記・実技対策
4	試験対策	筆記・実技対策
5	試験対策	筆記・実技対策
6	試験対策	筆記・実技対策
7	試験対策	筆記・実技対策
8	試験対策	筆記・実技対策

9	試験対策	筆記・実技対策
10	試験対策	筆記・実技対策
11	試験対策	筆記・実技対策
12	試験対策	筆記・実技対策
13	試験対策	筆記・実技対策
14	試験対策	筆記・実技対策
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	検定対策Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	検定対策Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	3	45
使用教材	エステ・メイク・ネイル用具一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	検定の合格を目指すための知識・技能を習得する。				
到達目標	検定の取得及びサロンワークで通用する基礎技術を習得することができる。				
評価基準	検定結果30%・授業態度他10%・筆記試験30%・授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	認定フェイシャルエステティシャン、認定ボディエステティシャン、メイクアップ検定ベーシック、JNECネイリスト検定3級・2級				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅡ、検定メイクⅠ、ベーシックメイクⅠ、ベーシックメイクⅡ ベーシックネイルⅠ、ベーシックネイルⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	原田 実保	実務経験	○		
実務内容	都内ネイルサロンに日本ネイリスト協会常任本部認定講師として25年勤務した経験を基に、検定取得のために必要なネイル技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	試験対策	筆記・実技対策
2	試験対策	筆記・実技対策
3	試験対策	筆記・実技対策
4	試験対策	筆記・実技対策
5	試験対策	筆記・実技対策
6	試験対策	筆記・実技対策
7	試験対策	筆記・実技対策
8	試験対策	筆記・実技対策

9	試験対策	筆記・実技対策
10	試験対策	筆記・実技対策
11	試験対策	筆記・実技対策
12	試験対策	筆記・実技対策
13	試験対策	筆記・実技対策
14	試験対策	筆記・実技対策
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	検定対策Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	検定対策Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	3	45
使用教材	エステ・メイク・ネイル用具一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	検定の合格を目指すための知識・技能を習得する。				
到達目標	検定の取得及びサロンワークで通用する基礎技術を習得することができる。				
評価基準	検定結果30%・授業態度他10%・筆記試験30%・授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	認定フェイシャルエステティシャン、認定ボディエステティシャン、メイクアップ検定ベーシック、JNECネイリスト検定3級・2級				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅡ、検定メイクⅠ、ベーシックメイクⅠ、ベーシックメイクⅡ ベーシックネイルⅠ、ベーシックネイルⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	原田 実保	実務経験		○	
実務内容	都内ネイルサロンに日本ネイリスト協会常任本部認定講師として25年勤務した経験を基に、検定取得のために必要なネイル技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	試験対策	筆記・実技対策
2	試験対策	筆記・実技対策
3	試験対策	筆記・実技対策
4	試験対策	筆記・実技対策
5	試験対策	筆記・実技対策
6	試験対策	筆記・実技対策
7	試験対策	筆記・実技対策
8	試験対策	筆記・実技対策

9	試験対策	筆記・実技対策
10	試験対策	筆記・実技対策
11	試験対策	筆記・実技対策
12	試験対策	筆記・実技対策
13	試験対策	筆記・実技対策
14	試験対策	筆記・実技対策
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ブライダル知識Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	ブライダル知識Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	ブライダルコーディネーターテキストスタンダード		出版社	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現場での実践に活かせるブライダルの基礎知識・用語・業界特性を理解・習得する。				
到達目標	ブライダルコーディネータースキルト検定3級合格。 ブライダルについての基礎知識や用語を理解し、使いこなすことができる。				
評価基準	試験：60% 小テスト：20% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	ブライダルコーディネータースキルト検定3級				
関連科目	ブライダル知識Ⅱ パーティプロデュース・ホテルプランニング・オリジナルプランニング				
備考	原則、この科目はオンデマンド授業形式・対面授業形式にて実施する。				
担当教員	野中 菜美	実務経験	○		
実務内容	ホテル3社にてウェディングプランナーとして11年勤務した後、ドレスコーディネーターとしてドレスの知識・技術を習得。現場での知識・経験を基に指導する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	ブライダルコーディネータースキルト検定について理解する ブライダルコーディネーターの定義を理解する
2	結婚の定義	結婚の法的意義、婚姻の要件について理解する
3	結婚の定義	結婚に関する言葉とその定義、結婚の類語を知る
4	日本の結婚式 歴史と文化	日本の結婚の歴史について学ぶ
5	日本の結婚式 歴史と文化	日本の結婚の歴史について学ぶ
6	日本の結婚式 歴史と文化	日本の結婚の歴史について学ぶ 宗教と結婚式について知る
7	日本の結婚式 歴史と文化	結婚に関する風習・いわれについて学ぶ
8	欧米の結婚式 歴史と文化	欧米の結婚式の歴史について知る

9	欧米の結婚式 歴史と文化	欧米の結婚式の歴史について知る
10	欧米の結婚式 歴史と文化	欧米の結婚式について知る
11	欧米の結婚式 歴史と文化	欧米の結婚式について知る
12	ブライダルビジネス ブライダル市場	ブライダル市場規模、市場規模の推移について把握する
13	ブライダル業種	ブライダル関連業種について理解する
14	テスト	前期内容のテストを実施する
15	総合	テストの振り返りとまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ブライダル知識Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	ブライダル知識Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	ブライダルコーディネーターテキストスタンダード		出版社	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	

科目の基礎情報②

エリア	現場での実践に活かせるブライダルの基礎知識・用語・業界特性を理解・習得する。				
到達目標	ブライダルコーディネータースキルト検定3級合格。 ブライダルについての基礎知識や用語を理解し、使いこなすことができる。				
評価基準	試験：60% 小テスト：20% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	ブライダルコーディネータースキルト検定3級				
関連科目	ブライダル知識Ⅱ パーティプロデュース・ホテルプランニング・オリジナルプランニング				
備考	原則、この科目はオンデマンド授業形式・対面授業形式にて実施する。				
担当教員	野中 菜美	実務経験	○		
実務内容	ホテル3社にてウェディングプランナーとして11年勤務した後、ドレスコーディネーターとしてドレスの知識・技術を習得。現場での知識・経験を基に指導する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期ⅠA振り返り ブライダル関連業種	前期で学んだⅠAの内容の振り返り ブライダル関連業種について理解する
2	エリア特性 ブライダル業界の1年	結婚における地域特有の風習について学ぶ ブライダル業界の1年の流れと集客システムについて理解する
3	見合いと婚約	見合い、婚約、婚約記念品について学ぶ
4	見合いと婚約	見合い、婚約、婚約記念品について学ぶ
5	結納・婚約式	結納について学ぶ
6	結納・婚約式	結納について学ぶ 婚約式、婚約披露パーティー、両家顔合わせについて学ぶ
7	ブライダル準備 キリスト教式	結婚までのスケジュールを理解する キリスト教式（カトリックとプロテスタント）について学ぶ
8	神前式	神前式の歴史と現状について知る 神前式式次第①

9	神前式	神前式式次第②
10	仏前式 挙式スタイル小テスト	仏前式の歴史と現状、仏前式式次第について知る キリスト教式・神前式・仏前式の挙式スタイルについての小テスト
11	人前式・シビルマリッジ	人前式、シビルマリッジの式次第について学ぶ
12	披露宴	披露宴のスタイル、披露宴の時間帯について学ぶ
13	披露宴の演出プラン	披露宴の進行について理解する
14	後期テスト	後期内容のテスト実施
15	総合授業	テストの振り返りとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビジネスマナーⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスマナーⅠ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	サービス接客検定公式テキスト3級 サービス接客検定実問題集3級 就職ハンドブック		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方やルール・マナーを習得する。				
到達目標	サービス接客検定3級に合格。 美容現場での敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのルール・マナーを身につけることができる。				
評価基準	試験50%、課題・提出物30% 授業態度等20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接客検定3級				
関連科目	就職対策Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式と同時双方向型遠隔授業形式を併用し、実施する。				
担当教員	古屋 有紀	実務経験	○		
実務内容	大手企業でビジネスマナーの社内教育担当として10年勤務をした実務経験をもとに、社会人としてのルールやマナーを身につける授業の展開をする。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ビジネスマナーとは	授業の目的・到達目標について ビジネスマナーを学ぶ意味を知る
2	サービススタッフの資質	サービス業界で求められているものについて
3		
4	サービススタッフの資質	必要とされる要件の復習・従業要件について
5		
6	専門知識・一般知識	サービス知識、従業知識、一般知識について
7		
8	対人技能(敬語)①	様々な接客用語・敬語について
9		

10	対人技能（敬語）②	尊敬語・謙讓語・二重敬語について
11		
12	対人技能（一般的なマナー）	動作を行う際の基本・ポイントについて
13		
14	対人技能①	人間関係について
15		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビジネスマナーⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスマナーⅡ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	サービス接客検定公式テキスト3級 サービス接客検定実問題集3級 就職ハンドブック		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方やルール・マナーを習得する。				
到達目標	サービス接客検定3級に合格。 美容現場での敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのルール・マナーを身につけることができる。				
評価基準	試験50%、課題・提出物30% 授業態度等20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接客検定3級				
関連科目	就職対策Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式と同時双方向型遠隔授業形式を併用し、実施する。				
担当教員	古屋 有紀	実務経験	○		
実務内容	大手企業でビジネスマナーの社内教育担当として10年勤務をした実務経験をもとに、社会人としてのルールやマナーを身につける授業の展開をする。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	対人技能①	人間関係について
2		
3	対人技能②	一般的なマナー・接客者としてのマナーについて
4		
5	対人技能③	話し方について
6		
7	実務技能①	問題処理について
8		

9	実務技能②	環境整備・金品管理について
10		
11	社交業務	社交儀礼の業務について
12		
13	総復習	1～12回までの総復習
14		
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビジネスマナーⅢ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスマナーⅢ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	サービス接客検定公式テキスト3級 サービス接客検定実問題集3級 就職ハンドブック		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを習得する。				
到達目標	サービス接客検定3級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。				
評価基準	試験30%、検定試験30%、課題・提出物20%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接客検定3級				
関連科目	就職対策Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式と同時双方向型遠隔授業形式を併用し、実施する。				
担当教員	古屋 有紀	実務経験	○		
実務内容	大手企業でビジネスマナーの社内教育担当として10年勤務をした実務経験をもとに、社会人としてのルールやマナーを身につける授業の展開をする。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定対策授業	復習と練習問題
2	検定対策授業	復習と練習問題
3	検定対策授業	復習と練習問題
4	検定対策授業	復習と練習問題
5	検定対策授業	復習と練習問題
6	検定対策授業	復習・検定問題の解答・解説
7	履歴書作成①	履歴書とは、履歴書のマナー、履歴書の書き方について
8	履歴書作成②	履歴書作成
9	社交文書 ①	縦書き・横書きレイアウトについて 文書の種類・文書の構成・頭語と結語・時候の挨拶・前文、末文の慣用句

10	社交文書 ②	郵便の基礎知識～宛名の書き方、返信はがき、お礼状、送付状について
11	理想の美容従事者像	お客様から愛され・親しまれる美容従事者について
12	実技演習①「受付～誘導」	受付から誘導のロールプレイング演習
13	実技演習②「面接練習」	面接試験の種類とチェックポイントについて
	実技演習③「電話対応」	面接ロールプレイング
14	実技演習④「お茶出し」	電話のかけ方・受け方、伝言メモ、予約電話のシミュレーション
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	SNS・WEB・フォトスキルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	SNS・WEB・フォトスキルⅠ		
開講		単位数	時間数		
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業界の現状やニーズを把握し、SNS・WEB・フォトスキルを活用したマーケティング・集客を理解し実践できるようにする。				
到達目標	顧客の共感や集客につながるメッセージや写真をX(旧Twitter)、Instagram、LINEなどのSNSやWEBを通じて発信できる。各コンテンツの基礎知識から運用ルールまで把握、理解し実践できる。				
評価基準	試験40%、提出物30% 授業態度等30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目	フォト&ファッション				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小池 龍之介	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	WEBマーケティングとSNS	SNSアカウント運用、広告、HP、LPの役割、ペルソナの設定などの基礎知識の講義
2	Instagramマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
3	Twitterマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
4	公式LINEアカウントマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
5	Youtubeマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
6	Facebook/Tiktokなどの各種SNSについて	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
7	炎上防止と炎上があった際の対策	ケーススタディ
8	画像撮影、加工の基礎	講義+実践
9	写真の撮影について	基礎的な技法の講義と実践

10	動画の撮影について	基礎的な技法の講義と実践
11	ライティングの基礎	講義+実践(9回目、10回目で撮影した写真・動画を使ってSNSの更新を行う)
12	ランディングページ(LP)を作ってみよう	SNSで人気のあるLPの紹介と簡易LP構築ツールを使用したLPの作成
13	WEB・SNS広告の概要と基本思想	講義(リスティング、SNS、GDN、YDN)それぞれの効果的な活用方法と特徴
14	WEB・SNS広告、SNSアカウントの分析方法	WEB・SNS広告、SNSアカウントの分析方法を学ぶ
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	SNS・WEB・フォトスキルII		
必修選択	選択	(学則表記)	SNS・WEB・フォトスキルII		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スマートフォンを使って作品撮りや自撮りのテクニックを習得する。				
到達目標	実際にInstagramのアカウントを作成し、投稿するための撮影技術やレイアウト、コラージュの仕方を学び投稿することができる。効果的な投稿ができるようになり、フォロワーを増やすことができる力を身につける。				
評価基準	試験・小テスト：60% 授業態度：20% レポート・課題など：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	SNS・WEB・フォトスキル				
備考					
担当教員	小池 龍之介	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 目的の設定	インスタグラムやSNSで集客するために
2	ペルソナの設定	見てもらいたいターゲットを決める
3	プロフィール作成	ペルソナ設定をした上で、ターゲット層へ向けてのプロフィールを作成する
4	惹きつける物の写真の撮り方①	写真の構図や角度について、魅力的な撮り方について
5	惹きつける物の写真の撮り方②	写真の構図や角度について、魅力的な撮り方について
6	惹きつける人物写真の撮り方①	お客様や自分自身をとる際の写真の構図、角度やぼかし技術について
7	惹きつける人物写真の撮り方②	お客様や自分自身をとる際の写真の構図、角度やぼかし技術について
8	効果的な投稿のあげ方①	投稿アプリを利用して、文章の組み立て方、つくり方を学び投稿してみよう

9	効果的な投稿のあげ方②	投稿アプリを利用して、文章の組み立て方、つくり方を学び投稿してみよう
10	ストーリー配信について	短編動画や写真を加工し有効的なストーリーを作成、使い方、機能の紹介
11	リール機能の効果的な使い方	30秒の短編動画を撮影し効果的な投稿について学ぶ
12	ライブ配信について	ライブ配信をする際のポイントや効果的な方法を学ぶ
13	成績評価	理解度の確認
14	フォロワー数について	フォロワーを上げるコツ、効果的な投稿をし続けられるために
15	総復習	これまでのまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラーコーディネートⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラーコーディネートⅠ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容現場で、色に関して適切な提案ができる。				
評価基準	試験50%、提出物30% 授業態度等20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式と同時双方向型遠隔授業形式を併用し、実施する。				
担当教員	古屋 有紀	実務経験	○		
実務内容	カラーコーディネートについての社内教育担当として10年勤務した実務経験を基に、色に関する知識・法則・技法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	パーソナルカラーとは、色の連想	授業の目的・到達目標について
2		パーソナルカラーを学ぶ意味を知る
3	色の心理的効果	色の持つイメージと性質
4		色の心理的効果について
5	色と光について①	色に見える仕組み
6		光について
7	色と光について②	眼(視覚)のしくみについて
8		

9		無彩色と有彩色、三属性について
10	色の特徴について①	色相環の作成
11		三属性について
12	色の特徴について②	色相環・トーン図の作成
13		
14	色の特徴について③	トーンについて
15	配色（色相、トーン）	配色、色相、トーンについて

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラーコーディネートⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラーコーディネートⅡ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容現場で、色に関して適切な提案ができる。				
評価基準	試験50%、提出物30% 授業態度等20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式と同時双方向型遠隔授業形式を併用し、実施する。				
担当教員	古屋 有紀	実務経験	○		
実務内容	カラーコーディネートについての社内教育担当として10年勤務した実務経験を基に、色に関する知識・法則・技法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	配色（色相、トーン）	配色、色相、トーンについて
2	配色（配色の応用、イメージ配色 他）	配色の応用編について
3		条件にあった配色をつくる
4	対比と同化	対比と同化について
5		
6	混色・慣用色名	混色の原理
7		慣用色名について
8	パーソナルカラーの基礎①	パーソナルカラーの基礎について
9		

10	パーソナルカラーの基礎②	各シーズンの特徴について、復習
11	復習	
12	総復習	1～6回までの総復習
13	総復習	6～11回までの総復習
14	総合授業	総まとめ
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラーコーディネートⅢ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラーコーディネートⅢ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容現場で、色に関して適切な提案ができる。				
評価基準	試験30%、検定試験30%、提出物20%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式と同時双方向型遠隔授業形式を併用し、実施する。				
担当教員	古屋 有紀	実務経験	○		
実務内容	カラーコーディネートについての社内教育担当として10年勤務した実務経験を基に、色に関する知識・法則・技法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アドバイス実践 (ファッション)	ファッションについて
2		
3	アドバイス実践 (ヘアカラー・メイク)	ヘアカラー、メイクについて
4		
5	アドバイス実践 (ネイル・プライダル)	ネイル、プライダルについて
6		
7	総復習	検定試験に向けての総復習
8	総復習	検定試験に向けての総復習
9	総復習	検定試験に向けての総復習

10	総復習	復習と練習問題
11	総復習	復習と練習問題
12	検定対策授業	復習と練習問題
13	検定対策授業	復習と練習問題
14	検定対策授業	復習と練習問題
15	検定対策授業	復習と練習問題

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラーコーディネートⅣ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラーコーディネートⅣ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容現場で、色に関して適切な提案ができる。				
評価基準	試験30%、検定試験30%、提出物20%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式と同時双方向型遠隔授業形式を併用し、実施する。				
担当教員	古屋 有紀	実務経験	○		
実務内容	カラーコーディネートについての社内教育担当として10年勤務した実務経験を基に、色に関する知識・法則・技法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定対策授業	復習と練習問題
2	検定対策授業	復習と練習問題
3	検定対策授業	復習と練習問題
4	検定対策授業	復習と練習問題
5	検定対策授業	復習と練習問題
6	パーソナルカラーの判定①	パーソナルカラーの判定に必要な知識について
7		
8	パーソナルカラーの判定②	パーソナルカラーの判定に必要な知識・実践について
9		

10	4つのグループの具体化①	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
11		
12	4つのグループの具体化②	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
13		
14	総合授業	総まとめ
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン演習A		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン演習A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	パソコン技能検定対策問題集3級・模擬問題集3級 30時間でマスター Word & Excel 2021		出版社	株式会社ユアサポート 実教出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	検定取得を目指し、基本的な入力方法から書類作成など、パソコンについての知識・技能を習得する。				
到達目標	社会人として必要とされるパソコンの基本操作ができる。				
評価基準	検定・試験60%、課題提出20% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者、成績評価が2以上の者				
関連資格	パソコン技能検定3級（後期パソコン演習Bにて実施）				
関連科目	パソコン演習B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	上山 理子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・PC基礎知識	授業の流れ、検定と到達目標を把握する PC基礎知識、タッチタイピング、ソフト、OCの使用方法、リテラシーについて理解する
2	Word入門①	Wordの基礎知識について・文字入力方法を理解する
3	Word入門②	文章入力、入力の訂正、特殊な入力方法を学ぶ
4	Word入門③	文の入力、文書の保存と読み込み、印刷、複写・削除・移動を学ぶ
5	Word活用	文字揃え、文字装飾、均等割り付け、フォントの変更、サイズの変更、下線・太字・斜体を学ぶ
6	Word応用①	表の作成・編集を実施する
7	Word応用②	表の作成・編集を実施する
8	文書作成	表入りビジネス文書作成を実施する

9	Excel入門	データ入力の手順、基本的なワークシートの編集、Excel書式設定について理解する
10	Excel応用①	オートSUM、関数、四則演算を実施する
11	Excel応用②	グラフの作成、グラフの設定変更を実施する
12	検定対策①	表入りビジネス文書作成練習、学科問題を実施する
13	検定対策②	表入りビジネス文書作成練習、学科問題を実施する
14	前期確認テスト	確認テスト(学科、タイピング、Word文書作成)を実施する
15	前期パソコン演習A復習	前期パソコン演習Aの総まとめ 確認テスト問題解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン演習B		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン演習B		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	パソコン技能検定対策問題集3級・模擬問題集3級 30時間でマスター Word & Excel 2021 はじめてのPowerPoint 2021		出版社	株式会社ユアサポート 実教出版 秀和システム	

科目の基礎情報②

授業のねらい	検定取得を目指し、基本的な入力方法から書類作成など、パソコンについての知識・技能を習得する。				
到達目標	検定に合格することで、社会人として必要とされるパソコンの基本操作を習得する。				
評価基準	試験60%、課題提出20% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パソコン技能検定3級				
関連科目	パソコン演習A				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	上山 理子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	PowerPoint入門	テキストボックス、図形、画像の挿入等、今まで学んだWord,Excelを踏まえPowerPointの動作を学ぶ
2	パワーポイント基礎①	プレゼンテーションとは、PPTの基本操作を学ぶ
3	パワーポイント基礎②	パワーポイントを使ったプレゼンテーション資料の作成①
4	パワーポイント基礎③	パワーポイントを使ったプレゼンテーション資料の作成②
5	Word復習	表入りビジネス文書作成と解説
6	Excel復習①	表計算問題実施と解説
7	Excel復習②	表計算問題実施と解説
8	Word・Excel復習	表入りビジネス文書、表計算問題を実施 解説

9	検定対策①	模擬問題実施(学科、タイピング、Word文書作成、表計算問題)
10	検定対策②	模擬問題実施(学科、タイピング、Word文書作成、表計算問題)
11	後期試験	学科、タイピング、Word文書作成、表計算問題の実施
12	問題解説	確認試験問題解説
13	パワーポイントプレゼン制作	オリジナルプレゼンテーションの作成
14	パワーポイントプレゼン応用	オリジナルプレゼンテーションにアニメーション、音楽の挿入を行う
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ベーシックエステⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックエステⅠ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	新エステティック学 技術編Ⅰ・理論編Ⅲ クリエーナ化粧品セット・タオル類・消耗品類		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	身体や皮膚の生理機能に基づいたフェイシャル・ボディトリートメントについて学ぶ。 エステティックの流れ、基本の手技を覚え一つ一つの手技の意味を理解する。				
到達目標	ホスピタリティーの実践することができ、基礎的なフェイシャル・ボディトリートメントの技術を提供できる。				
評価基準	実技試験60%(成績評価全2回実施)小テスト20%、授業態度・提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	皮膚学Ⅰ・生理学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柴崎 琴実	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして6年勤務をした実務経験を基に、フェイシャル・ボディトリートメントを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ベーシックⅠオリエンテーション ボディエステティックとは	自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標について解説 1. ボディエステティックの目的と効果 2. ボディエステティックの流れ 3. ルールについて・ベッドセッティング
2	接客マナー	笑顔・あいさつ身だしなみ・言葉づかい・基本動作・ベッド誘導 ボディトリートメント/手の使用部位・流れ(下肢後面デモ・練習)・下肢後面相モデル練習
3	ボディマッサージ 下肢後面①	手技練習・拭取り練習
4	ボディマッサージ 下肢後面②	下肢後面通し練習
5	ボディマッサージ 下肢後面③	下肢後面通し練習
6	ボディ実技試験	成績評価①
7	フェイシャルエステティックとは 接客マナー	フェイシャルエステティックの目的と効果・フェイシャルエステティックの流れ 事前準備・基本動作・ベッド誘導
8	フェイシャル クレンジング ①	クレンジング導入・デモ
9	フェイシャル クレンジング ②	クレンジング練習

10	フェイシャルマッサージ ①	マッサージ導入・デモ
11	フェイシャルマッサージ ②	マッサージ導入・デモ
12	フェイシャルマッサージ ③	マッサージ総合
13	フェイシャルマッサージ ④	マッサージ総合
14	フェイシャル実技試験	成績評価②
15	総合技術	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ベーシックエステⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックエステⅡ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	新エステティック学 技術編Ⅰ・理論編Ⅲ クリエーナ化粧品セット・タオル類・消耗品類		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学ぶ。 肌・体の状態に合ったフェイシャル・ボディトリートメントを理解する。				
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行うことができる。				
評価基準	実技試験60%(成績評価全2回実施)小テスト20%、授業態度・提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	皮膚学Ⅰ・生理学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柴崎 琴実	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして6年勤務をした実務経験を基に、フェイシャル・ボディトリートメントを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ベーシックエステⅡ オリエンテーション	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標について解説前期の振り返り
2	ディープクレンジング(粒子有・無)導入	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔(粒入り・無し)
3	ディープクレンジング(粒子有・無)練習	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔(粒入り・無し)
4	ディープクレンジング(酵素)導入	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔(酵素)
5	ディープクレンジング(酵素)練習	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔(酵素)
6	ディープクレンジング総合	ケースワーク ※モデルの肌状態で(粒子有・なし・酵素&スチーマー) 選択:口頭試問
7	ディープクレンジング総合	ケースワーク ※モデルの肌状態で(粒子有・なし・酵素&スチーマー) 選択:口頭試問
8	実技試験	成績評価① ディープクレンジング総合
9	実技試験	成績評価① ディープクレンジング総合

10	ボディマッサージ 導入	デモ・下肢前面、拭取り
11	ボディマッサージ 練習	下肢前面、拭取り
12	ボディマッサージ 総合	下肢前面通し
13	実技試験	成績評価② ボディマッサージ 下肢前面 拭き取り
14	実技試験	成績評価② ボディマッサージ 下肢前面 拭き取り
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	プロフェイシャルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロフェイシャルⅠ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	新エステティック学 技術編Ⅰ・理論編Ⅲ・エステティシヤンのためのフェイシャル技術理論・クリエヌ化粧品セット・タオル類・消耗品類		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	トラブル別に使用する化粧品・機器の種類について理解し、その使用方法・注意事項・禁忌事項を学ぶ。肌の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を習得する。				
到達目標	エステティシヤンとしての接客マナーを理解し、実践できる。 クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行うことができる。				
評価基準	実技試験60%(成績評価全2回実施)小テスト20%、授業態度・提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	AEA上級認定エステティシヤン AJESTHE認定上級エステティシヤン				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	林 麻予	実務経験		○	
実務内容	エステティックサロンでエステティシヤンとして23年勤務をした実務経験を基に、トリートメント知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	プロフェイシャルⅠ オリエンテーション	前期復習・オリエンテーション
2	ポイントメイククレンジング 形状別クレンジング剤	形状別クレンジング剤の使用について ポイントメイククレンジング
3	ディープクレンジング(粒子有・無し)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔(粒入り・無し) 練習: フェイシャルマッサージ・マスク・ふき取り誘導
4	ディープクレンジング(酵素)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔(酵素) 練習: フェイシャルマッサージ・マスク・ふき取り誘導
5	ディープクレンジング 練習	ケースワーク
6	実技試験	ケースワーク成績評価①
7	ディープクレンジング(ブラシ・キッシング)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 キッシング
8	ディープクレンジング(ブラシ・キッシング)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 フリマトール
9	ディープクレンジング(電気)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 エレクトロクレンジング・ディスインクラステーション

10	ディープクレンジング 総合	ケースワーク
11	実技試験	成績評価②
12	スキンチェック	クレンジング後のスキンチェック方法導入
13	ケーストレーニング	肌分析 ケースワーク
14	ケーストレーニング	肌分析 ケースワーク
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	プロボディ I		
必修選択	選択	(学則表記)	プロボディ I		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	クリエータ化粧品マッサージオイル・タオル類・消耗品類・採寸用メジャー、新エステティック学 技術編Ⅰ・理論編Ⅲ エステティシャンのためのボディ技術理論		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	全身のマッサージを学び、採寸から分析しクライアントに合わせたマッサージを提供できる知識・技能を習得する。 マッサージについての注意事項・禁忌事項を学び、身体の状態に合わせたトリートメントを提供できる知識・技能を習得する。				
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを理解し、実践することができる。 クライアントの状態・目的に合った手技を組み合わせたマッサージを行うことができる。				
評価基準	実技試験60%(成績評価全2回実施)小テスト20%、授業態度・提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	AEA上級認定エステティシャン AJESTHE認定上級エステティシャン				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石塚 順子	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして30年勤務をした実務経験を基に、全身のマッサージ技術・知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返り/前操作デモンストレーション
2	腰背部マッサージ 導入	デモンストレーション・手技・拭き取り
3	腰背部マッサージ 練習	通し練習 下肢後面～腰背部
4	下肢前面マッサージ 導入	デモンストレーション・手技・拭き取り
5	下肢前面マッサージ 練習	通し練習 腰背部～下肢前面
6	実技試験	成績評価① 腰背部～下肢前面
7	上肢マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
8	腹部マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
9	デコルテ・頭部マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り

10	マッサージ総合	上肢～腹部～デコルテ・頭部
11	マッサージ総合	下肢後面・腰背部・下肢前面・上肢・腹部・デコルテ・頭部マッサージの不足箇所の練習
12	実技試験	成績評価② 総合
13	ボディチェック（採寸含む）	確認とボディチェック（視診・触診・問診）の デモンストレーション・実践 マッサージ練習
14	ボディチェックを含めた総合授業	確認とボディチェック（視診・触診・問診）の実践 コンサルテーション・マッサージ
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	フェイシャル&ボディ I		
必修選択	選択	(学則表記)	フェイシャル&ボディ I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	45
使用教材	クリエース化粧品セット・消耗品類 教科書 新エステティック学 技術編Ⅰ・理論編Ⅲ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学ぶ。 肌・体の状態に合わせたトリートメントについて理解する。				
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを理解し、実践できる。 クライアントの状態・目的に合わせたディープクレンジングを安全に行うことができる。				
評価基準	実技試験60%(成績評価全2回実施)小テスト20%、授業態度・提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン				
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柴崎 琴実	実務経験		○	
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして6年勤務をした実務経験を基に、エステティック技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フェイシャル&ボディ I オリエンテーション	前期復習 オリエンテーション
2	ポイントメイククレンジング 形状別クレンジング剤	形状別クレンジング剤の使用方法について (ジェル・クリーム・オイル)
3	フェイシャル ディープクレンジング	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔 (粒入り・無し)
4	フェイシャル ディープクレンジング	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔 (酵素)
5	通し練習	通し練習 肌に合わせた選択をする クレンジングーディープクレンジングーマッサージー拭き取りー整肌
6	通し練習	通し練習 肌に合わせた選択をする クレンジングーディープクレンジングーマッサージー拭き取りー整肌
7	フェイシャル実技試験	成績評価①
8	下肢 (後) マッサージ復習	前期復習 ご案内-下肢マッサージ-ふき取り-誘導
9	腰背部マッサージ 導入	腰背部マッサージデモンストレーション

10	腰背部マッサージ 練習	下肢後面・腰背部 マッサージ練習
11	腹部マッサージ 導入	腹部マッサージデモンストレーション
12	腹部マッサージ 練習	腰背部・腹部 マッサージ練習
13	マッサージ総合	下肢後面～腹部 通し練習
14	ボディ実技試験	成績評価②
15	総合授業	総合復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	フェイシャル&ボディⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	フェイシャル&ボディⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	美容研究科	1	45
使用教材	新エステティック学 技術編Ⅰ・クリエヌ化粧品セット タオル類・消耗品類・筆記用具・ボディ化粧品		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	フェイシャル&ボディⅠで学んだエステティック機器の使用法・注意事項・禁忌事項を活かし、肌・体の状態に合わせたトリートメントについての理解を深める。				
到達目標	技術力確認試験 合格レベル				
評価基準	実技試験60%/小テスト20%/授業態度・提出物など20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	日本エステティック協会 認定フェイシャルエステティシャン・認定ボディエステティシャン				
関連科目	カウンセリングⅢ・フェイシャル&ボディⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	柴崎 琴実	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして6年勤務をした実務経験を元に、エステティックの技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フェイシャル&ボディⅡ オリエンテーション	フェイシャルエステティック 化粧品使用方法と説明
2	フェイシャル技術理論(皮膚学) カウンセリング	トリートメントの目的・皮膚の構造 カウンセリング・コンサルテーションシートの記入方法
3	ディープクレンジング復習	粒子あり・なし・酵素 手順復習
4	ディープクレンジング 吸引	スチーマーの使用法・キッシング手順 理論含む
5	クレンジング～キッシング	クレンジング～キッシング～マッサージ 拭き取り(コットン・HOT)
6	ディープクレンジング ブラシ	ブラシの使用法 デモ・相モデル 理論含む
7	クレンジング～ブラシ	クレンジング～ブラシ～マッサージ 拭き取り(コットン・HOT)
8	総合技術 吸引・ブラシ	成績評価①
9	ディープクレンジング 電気	イオンクレンジングもしくはディスインクラステーション 理論含む

10	クレンジング～電気	クレンジング～イオンクレンジング～マッサージ 拭き取り(コットン・HOT)
11	ディープクレンジング総合 コンサルテーションシート	総合復習 カウンセリングを実施し合ったものを提供
12		成績評価② 全体を総合し、肌にあった内容を提供できること
13	フェイシャルマスク	デモンストレーション・手技・拭き取り
14	クレンジング～マッサージ～ フェイシャルパック	クレンジング～マッサージ～ フェイシャルパック 通し
15	総合技術	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ベーシックメイクⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックメイクⅠ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック (デジタルテキスト)		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケアからフルメイクまでのメイク技術を習得し、現場を意識したメイク実践ができるようになる。				
到達目標	スキンケアからフルメイクまでの技術と理論が理解できる。 人にメイクができる。				
評価基準	試験50%、提出物30% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック(後期)				
関連科目	検定メイクⅠ、検定メイクⅡ、ベーシックメイクⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	本美 さちこ	実務経験	○		
実務内容	美容室に勤務しブライダルヘアメイクを中心にヘアメイクアップアーティストとして現役活動。頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
2	スキンケア	スキンケア(手順)、反復練習
3	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク(手順)
4	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト10分 ファンデーション(手順の復習、質感・多色塗り)
5	ベースメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ)、ベースメイクの振り返り
6	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ) ポイントメイク(アイシャドウ)
7	セルフメイク	セルフメイク
8	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
9	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)

10	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ&ローライト)
11	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
12	フルメイク	フルメイクテスト35分×2、ベーシックテクニックの振り返り
13	ソフト	フルメイク(ソフト)
14	シャープ	フルメイク(シャープ)
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ベーシックメイクⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックメイクⅡ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック (デジタルテキスト)		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	前期に学んだ基礎知識・技能を活かし、テーマに合わせたメイク技術を習得しメイク検定合格を目指す。				
到達目標	メイクの基礎技術を習得し、フルメイクまでできる。				
評価基準	試験30%、検定取得20%、提出物30% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック				
関連科目	ベーシックメイクⅠ、検定メイクⅠ、検定メイクⅡ、パーソナルメイク				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	本美 さちこ	実務経験			
実務内容	美容室に勤務しブライダルヘアメイクを中心にヘアメイクアップアーティストとして現役活動。頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
7	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う)
8	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク35分行う テスト扱いとする
9	プロポーシオン	プロポーシオンについて導入、実践

10	錯覚	錯覚について導入、実践
11	ネイル → 色、質感 エステ → フルメイク	ネイル → 色、質感について導入、実践 エステ → メイク対策
12	ネイル → 色、質感 エステ → フルメイク	ネイル → 色、質感について導入、実践 エステ → メイク対策
13	ネイル → 色、質感 エステ → フルメイク	ネイル → 色、質感についてテスト エステ → メイク対策についてのテスト
14	ネイル → 色、質感 エステ → フルメイク	ネイル → 色、質感についてテスト エステ → メイク対策についてのテスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ベーシックメイクⅢ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックメイクⅢ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストアドヴァンス (デジタルテキスト)		出版社	ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	イメージに合わせたメイク技術を理解し、施術時間も意識しながら実践できるようになる。				
到達目標	各テーマのメイク技術の理解を通じて、人物に合うメイクを施すことができる。				
評価基準	試験50%、提出物30% 授業態度等20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	メイク検定アドヴァンス(任意受験)				
関連科目	パーソナルヘア&メイクⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	甲斐切 直美	実務経験	○		
実務内容	ブライダルヘアメイクサロンを20年経営し、現在もブライダル、芸能、ヘアメイク、舞台ヘアメイク他、ヘアメイクアップアーティストとして活動。実務経験を基に、特殊メイクに必要な知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション アドヴァンス検定詳細説明/練習①	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの詳細説明/練習
2	プロポーション、錯覚	プロポーション、錯覚(導入、実践)
3	色とトーン	色の持つイメージ・トーンを持つイメージを理解し、各色が持つイメージワードを考え、組み合わせることで、メイクの幅が広がることを理解する。
4	カラーマップに沿ったメイク 質感①	カラーマップの見方を理解し、前回学んだ事を踏まえ相モデルでモデルに合ったメイクを実践。また、質感の特徴も理解する
5	カラーマップに沿ったメイク 質感②	カラーマップの見方を理解し、前回学んだ事を踏まえ相モデルでモデルに合ったメイクを実践。また、質感の特徴も理解する
6	パーソナルメイクアップ①	相モデルで骨格・パーツ診断をしパーソナルメイク実践
7	パーソナルメイクアップ②	相モデルで骨格・パーツ診断をしパーソナルメイク実践
8	スチールメイク①	作品作りに必要なテクニックを理解させ、スチールメイクに必要なベースづくりや色の出し方をマスターする。
9	スチールメイク②	SNSや雑誌等を活用してスチールメイクをする

10	スチールメイク③	SNSや雑誌等を活用してスチールメイクをする
11	フォトコンテスト対策①	テーマに合わせたデザイン画の作成、フルメイク練習
12	フォトコンテスト対策②	フルメイク(テスト、振り返り)
13	フォトコンテスト対策③	作品制作撮影
14	フォトコンテスト対策④	作品制作撮影
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	検定メイクⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	検定メイクⅠ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	3	45
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック (デジタルテキスト) メイクアップテキストアドヴァンス (デジタルテキスト)		出版社	ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	メイクの基礎知識や技術を学び、メイク検定に合格する。				
到達目標	検定の内容に沿ったメイク技術を身につけることができる。 スキンケア・メイクアップ技術を実践できる。				
評価基準	試験30%、検定取得20%、提出物30% 授業意欲20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック				
関連科目	ベーシックメイクⅠ、検定メイクⅡ、ベーシックメイクⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	甲斐切 直美	実務経験		○	
実務内容	ブライダルヘアメイクサロンを20年経営し、現在もブライダル、芸能、ヘアメイク、舞台ヘアメイク他、ヘアメイクアップアーティストとして活動。実務経験を元に、特殊メイクに必要な知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
7	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク34分行う テスト扱いとする
8	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う) 座学(問題集にて検定対策を行う)
9	アドヴァンス検定対策①	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの練習を行う

10	アドヴァンス検定対策②	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの練習を行う
11	アドヴァンス検定対策③	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの練習を行う
12	アドヴァンス検定対策④	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの練習を行う
13	アドヴァンス検定対策⑤	検定テーマに合わせて、テストを行う
14	アドヴァンス検定対策⑥	検定テーマに合わせて、テストを行う 振り返りを行う
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ベーシックネイルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックネイルⅠ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ネイルの歴史などの背景をはじめ、各部名称や病気・消毒法などを理解し、基礎的なケアカラー技術を実践できるようになる。				
到達目標	ネイルの基礎知識・技術を理解し、実践できる。 JNECネイリスト技能検定3級レベルの知識・技能を習得できる。				
評価基準	実技試験30%、筆記試験30%、小テスト20%、宿題及び授業態度他20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JNECネイリスト技能検定3級				
関連科目	生理学Ⅰ・皮膚学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	遠藤 しのぶ 他1名	実務経験	○		
実務内容	都内やカナダのネイルサロンで日本ネイリスト協会本部認定講師ネイリストとして15年勤務をした実務経験を基に、ネイルの知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	教材配布・歴史・技術体系・面取り・ウッドスティック整え方	教材配布(名称及び説明)・今後の説明・歴史・技術体系・ファイルの面取り・ウッドスティック整え方
2	ネイル概論(爪の構造と働き) ネイルのための皮膚科学 テーブルセッティング ファイリングデモ・実技 (トレーニングハンドにてデモ・実技は自分の爪)	爪の構造・皮膚学(皮膚学の教科で学んでいる内容との相違と不足分を学ぶ) 検定に準じたテーブルセッティングを学ぶ トレーニングハンドを使用し、ファイリングの手順、5パターンのカットスタイルの違いを理解する ライトを使用する(A L方式)
3	消毒法 ファイリング実技(相モデル)・バッフィング ケア デモンストレーション(プッシュアップ・プッシュバック)	消毒衛生を理解する ファイリング相モデル・バッフィングの方法を学び、実践する ケアのデモンストレーションでプッシュアップ・プッシュバックを学ぶ
4	ネイルのための生理学Ⅰ・Ⅱ ケア デモンストレーション(プッシュアップ・プッシュバック・ニッパーの使い方) ケア実技	生理学の教科で学んでいる内容との相違と不足分を学ぶ 正しい使用方法、手順を学ぶ ケアだけのデモンストレーションをプッシュアップ～ニッパーまで学び、実践する
5	ケア実技(相モデル)	両手を通しての手順を覚える
6	化粧品学カラーリング デモシートまたはチップ実技 カラーリング実技(相モデル)	化粧品学の教科で学んでいる内容との相違と不足分を学ぶ シートまたはチップを使用し、ボトルの持ち方、ポリッシュの量、塗り方を学ぶ(持ち塗り、置き塗り)
7	爪の病気とトラブル 爪の異常 ケア・カラーリング実技	爪のトラブルを学ぶ カウンセリング～ケア～カラーリングまでの手順を学ぶ
8	検定注意事項3級検定DVD ケア・カラーリング実技	検定に向けて手順を完全に理解する

9	ポリッシュアートとペイントアート 講義・デモ・実技 シート練習 アート練習(チップ)	検定以外の基本のアートを学ぶ フレンチ・シボレー・ファン・マーブルや、アクリル絵の具使用のペイントアートなど学ぶ ※チップにラウンド・アートの宿題
10	アート練習 カラー・アート(相モデル)	テーマを決めアート練習
11	ケア・カラー・アート実技 筆記試験対策	検定の実技練習 ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題 筆記試験対策を行う
12	筆記試験 (テスト) 検定実技	検定の実技練習 ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題
13	実技試験 (テスト)	検定の実技にてタイムトライアル ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題
14	検定実技 (タイムトライアル)	検定の実技にてタイムトライアル ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ベーシックネイルⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックネイルⅡ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ネイル技術の基本を学び、実践できるようになる。 基礎に加えてJNAネイリスト技能検定2級課題である爪の補修・補強の技術を学ぶ。				
到達目標	JNECネイリスト技能検定3級のネイル技術を習得し、JNAネイリスト技能検定2級が取得できる技術が身につく。				
評価基準	実技試験30%、筆記試験30%、3級検定結果30%、宿題及び授業態度他10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JNECネイリスト技能検定3級・2級				
関連科目	生理学Ⅱ・皮膚学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	遠藤 しのぶ 他1名	実務経験	○		
実務内容	都内やカナダのネイルサロンで日本ネイリスト協会本部認定講師ネイリストとして15年勤務をした実務経験を基に、JNA2級課題である爪の補修・補強を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	JNEC3級実技対策①	検定実技(タイムトライアル)
2	JNEC3級実技対策②	検定実技(タイムトライアル)
3	JNEC3級実技対策③	検定実技(タイムトライアル)
4	ポリッシュアート①	ポリッシュアート ラメグラ・マーブル・ウォーターマーブル他
5	アクリルアート②	アクリル絵の具を使ったアート
6	アクリルアート③	アクリル絵の具を使ったアート
7	トリートメント①	ハンドトリートメント講義、デモ、ハンドトリートメント実技
8	トリートメント②	ケア・ハンドトリートメント 相モデル
9	シルクラップ①	プレパレーションデモリベア(シルクラップ) チップラップデモ、実技

10	シルクラップ②	リペア（シルクラップ）チップラップ相モデル
11	チップラップ①	リペア（チップラップ）相モデル
12	チップラップ②	リペア（チップラップ）相モデル
13	実技試験	実技試験（アート・チップラップ）
14	筆記試験 ハンドトリートメント実技	筆記試験 ハンドトリートメント実技
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ベーシックネイルⅢ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックネイルⅢ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック/アドバンス/ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	JNECネイリスト技能検定2級・JNAジェルネイル技能検定初級取得し、デザインジェルネイルの知識・技能を習得し、サロンでお客様に説明しながら施術ができるようになる。				
到達目標	JNAジェルネイル技能検定初級を合格し、サロンで通用する技術を身につける。				
評価基準	前期：ジェルネイル技能検定初級検定結果30%・宿題/授業態度他10%・筆記試験30%・実技試験30% 後期：宿題/授業態度他20%・筆記テスト40%・実技テスト40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	JNECネイリスト技能検定3級・2級				
関連科目	ネイルケア&ネイルアートⅠ-G・ネイルケア&ネイルアートⅡ-G				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	遠藤 しのぶ	実務経験	○		
実務内容	都内やカナダのネイルサロンで日本ネイリスト協会本部認定講師ネイリストとして15年勤務をした実務経験を基に、ジェルネイル検定合格に向けて実技を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ジェル教材の名称及び説明・ジェルシステム講義・カラーとオフのデモ	教材説明・ジェルシステム講義・UVライト(LED)で硬化するジェルシステムを学ぶ・クリアとカラーの塗布～オフまでデモンストレーション
2	初級検定説明・デモ	初級検定説明・デモ
3	クリアカラー実技	ジェルネイルの基本的な技術を学ぶ
4	ジェル初級検定実技①	初級検定内容を学び・技術を学ぶ
5	ジェル初級検定実技②	ジェル初級検定実技
6	ジェル初級検定実技③	ジェル初級検定実技
7	ジェル初級検定実技④	タイム取りをして検定実技の練習を行う
8	ジェル初級検定実技⑤	タイム取りをして検定実技の練習を行う
9	実技試験①	実技試験

10	実技試験② 筆記試験	実技試験 筆記試験
11	JNEC 2 級検定実技①	ファイリングやニッパーのハンドリングを改めて見直し、基礎的技術の強化を行う
12	JNEC 2 級検定実技②	2級検定の実技の練習を繰り返し行う
13	JNEC 2 級検定実技③	2級検定の実技の練習を繰り返し行う
14	JNEC 2 級検定実技④	2級検定の実技の練習を繰り返し行う
15	総合授業	これまでの総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ネイル検定対策Ⅰ			
必修選択	選択	(学則表記)	ネイル検定対策Ⅰ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	3	45	
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック/アドバンス/ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会		

科目の基礎情報②

授業のねらい	JNECネイリスト技能検定3級を取得し、更に上の級やJNAジェルネイル技能検定初級の取得を目指し、ネイリストとしての基礎を完全に習得し、実践できる。				
到達目標	JNECネイリスト技能検定2級・JNAジェルネイル技能検定初級の取得及びサロンワークで通用する基礎技術の習得。				
評価基準	JNECネイリスト技能検定3級検定結果30%・授業態度他10%・筆記試験30%・実技試験30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JNECネイリスト技能検定3級・2級・1級				
関連科目	ネイルケア&ネイルアートⅠ-F・ジェルネイルⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	原田 実保	実務経験	○		
実務内容	日本ネイリスト協会常任本部認定講師として都内ネイルサロンに25年勤務した経験を基に、JNECネイリスト技能検定2級取得のために必要なネイル技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	JNEC3級検定実技①	JNEC3級検定に向けて最終練習
2	JNEC3級検定実技②	JNEC3級検定に向けて最終練習
3	検定注意事項・2級検定デモ	JNEC2級検定に向けて筆記対策と共に検定要項に沿い注意事項を確認 基礎的な技術を復習し完全にマスターしていく
4	JNEC2級対応ケア実技	2級対応ケア練習 ラウンド/プッシュャー/ニッパー強化
5	チップラップ①	プレパレーション、チップラップデモ・実技
6	チップラップ②	チップラップ実技
7	チップラップ③	チップラップ相モデル
8	JNEC2級検定後半実技①	2級検定後半実技 チップラップ・カラー・アート

9	JNEC2級検定後半実技①	2級検定後半実技 チップラップ・カラー・アート
10	ジェル初級検定実技または 2級検定実技	タイム取りをしてジェル検定実技または2級実技試験の実技の練習を行う
11	ジェル初級検定実技または 2級検定実技	タイム取りをしてジェル検定実技または2級実技試験の実技の練習を行う
12	2級検定検定注意事項 筆記試験	検定要項に沿い注意事項を確認
13	実技試験	実技試験
14	実技試験	実技試験
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックA - I		
必修選択	選択	(学則表記)	美容ベーシックA - I		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第2課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第2課題についての基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上りのベースを理解し習得する。				
到達目標	美容師国家試験第2課題技術の基礎知識の習得及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	試験50% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	田代 勝吾	実務経験	○		
実務内容	スタイリストとして5年経過後、都内美容専門学校の教員として国家試験実技課題であるカット、ワインディング、オールウェーブの指導の他、国家試験学科である美容技術理論Ⅰ・Ⅱを担当。また、スタイリストの経験を活かしサロンワークに必要な技術の授業や個々に合わせた就職対策指導など9年の実務経験を経て、現在に至る。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
2	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
3	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
4	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H

5	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
6	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
7	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
8	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
9	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
10	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
11	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
12	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
13	オールウェーブセッティング	テスト
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックA - II		
必修選択	選択	(学則表記)	美容ベーシックA - II		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第2 課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第2 課題についての基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上がりのベースを理解して習得する。				
到達目標	美容師国家試験第2 課題技術の基礎知識の習得及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	試験50% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	本田 諭	実務経験		○	
実務内容	美容室でスタイリストとして17年勤務。その経験を活かし現場力を指導する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
2	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
3	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
4	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H

5	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
6	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
7	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
8	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
9	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
10	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
11	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
12	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
13	総合授業	総合授業
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックB		
必修選択	選択	(学則表記)	美容ベーシックB		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	3	90
使用教材	ワインディングまたはオールウェーブ教材一式・ カッティング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験 実技試験合格に向け、試験時間内に合格基準を満たす技術を習得する。				
到達目標	美容師国家試験 第1課題・第2課題・国家試験衛生合格レベルの技術を習得する。				
評価基準	まとめ30%、総まとめ40%、授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の5分の4以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	渡辺 浩康	実務経験	○		
実務内容	美容室2年、有名ホテルのブライダルヘアメイク5年経験。講師歴7年。現在はフリーランスのヘアメイクアーティストとして活動中。現場での知識を活かし美容師国家試験合格に向けて、理解しやすい授業展開を行う。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
2	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
3	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
4	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
5	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
6	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
7	国家試験第1課題・第2課題 まとめ	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 まとめを実施する
8	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生

9	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
10	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
11	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
12	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
13	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
14	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
15	国家試験第1課題・第2課題 総まとめ	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 総まとめを実施する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎理論Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	基礎理論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論1 美容技術理論2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」について正しい知識を習得する。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	試験30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小松田 健治	実務経験	○		
実務内容	美容室にてスタイリストとして4年勤務。美容師の経験を活かし、技術理論を現場での実務に合わせて授業展開を行う。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	≪ 8章 エステティック ≫ 1. エステティック概論 2. 皮膚の生理と構造 3. カウンセリング	・エステティックの歴史、範囲、心得、注意点・皮膚の構造・カウンセリングの目的・実際、エステティックにおけるカウンセリング
2	4. 美容におけるマッサージ理論 5. フェイシャルケア技術 6. フェイシャル及びデコルテマッサージ 7. フェイシャルパック 8. ボディケア技術 9. ボディマッサージ	・基本手技・フェイシャルの効果、方法・デコルテ、フェイシャルの手順 マッサージにおける手の動かし方と操作ポイント
3	≪ 9章 ネイル技術 ≫ 1. ネイル技術概論 2. ネイル技術の種類 3. 爪の構造と機能 4. 爪のカット形状 5. ネイル技術と公衆衛生 6. カウンセリング	・ネイルケア、アーティフィシャルネイル、ネイルアート・爪の構造と機能・爪のカット形状・消毒方法の種類、器具の消毒手順、テーブルセッティングの一例・カウンセリング
4	7. ネイルケア 8. アーティフィシャルネイル 9. 手と足のマッサージ	・ネイルケアの道具、マニキュア・ペディキュア技術の手順・アーティフィシャルネイル技術の道具、プレパレーションの手順、ナチュラルネイルオーバーレイ技術の種類、ジェル技術の手順、シルクラップ技術の手順・グルー&ファイラー技術の手順、アーティフィシャルネイルの追加とオフ・ハンドマッサージのポイント・手順、フットマッサージのポイント・手順

5	≪ 10章 メイクアップ ≫ 1.メイクアップ概論 2.顔の形態学的な観察 3.メイクアップと色彩 4.皮膚の生理と構造 5.メイクアップの道具 6.スキンケア 7.ベースメイクアップ	・メイクアップ概論（サロンワーク・スタジオワーク）・顔のプロポーション、顔の骨格と筋肉、顔の立体研究、メイクアップによる立体感、顔の凹凸に基づいたブロッキング・色の三属性、マルセル表色系による色の分類、角度配色・皮膚の生理と構造・メイクアップの道具 ・クレンジング、トーンング、プロテクティング・ファンデーションの目的・選び方、塗り方と順序の一例、多色塗り、ハイライト、ローライト、カバーホワイト ベースメイクのアクセントカラー・パウダリング
6	8. アイメイクアップ 9. アイブロウメイクアップ 10. リップメイクアップ 11. ブラッシュオンメイクアップ 12. まつ毛エクステンション	アイライン、アイシャドー、カラーアイシャドー、パウダーアイシャドー、アイラッシュカール、マスカラ つけまつ毛のテクニック・眉の整え方、ドローイング、シェーディング ・リップの丸みのある描き方、鋭角的な描き方、ブラッシュオンメイクアップ ・まつ毛エクステンションにおける衛生及び保健、道具の一例・カウンセリング、注意事項、施術の一例
7	総まとめ	テストを実施する 8章～10章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	≪ 11章 日本髪 ≫ 1.日本髪の由来 2.日本髪の各部の名称 3.日本髪の種類と特徴 4.日本髪と調和	・日本髪の由来・日本髪の各部の名称・日本髪の種類と特徴・日本髪と調和
9	5.日本髪の装飾品 6.日本髪の結髪道具 7.日本髪の結髪技術 8.日本髪の手入れ 9.かつら	・日本髪の装飾品・日本髪の結髪道具・日本髪の結髪技術 ・日本髪の手入れ・かつら（かぶせ方、飾り方、付け方、簪の位置、外し方、持ち方、しまい方、手入れ）
10	≪ 12章 着付けの理論と技術 ≫ 1.着付けの目的 2.礼装 3.着物と季節 4.着物のいろいろ 5.帯 6.小物 7.着物各部の名称 8.着物のたたみ方	・着付けの目的・女子礼装、男子礼装、礼装生地、準礼装、心得・着物と季節・着物のいろいろ・帯・小物の種類・着物の各部の名称・着物のたたみ方
11	9.着付けの一般的要領 10.留袖着付け技術 11.振袖着付け技術 12.帯締め、帯揚げの結び方 13.男子礼装羽織、袴着付け技術	・体型補正、長襦袢の着付け・着物の着付け、帯結び・帯締めの結び方の一例、帯揚げの結び方の一例、男子礼装羽織、袴着付け技術
12	14.羽織のひもの結び方15.女子袴着付け技術 16.婚礼着付けの際の注意事項17.和装花嫁 18.洋装花嫁(ウエディングドレスの知識)	・羽織のひもの結び方・女子袴着付け技術・美容師自身の身だしなみ、不測の事態に備える、緊張をほぐすための細かい配慮、花嫁の動作に注意する、機敏な動作・和装花嫁・洋装花嫁
13	まとめ	まとめを実施する 11章～12章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
14	解説	まとめ振り返り・解説
15	美容技術理論Ⅱ 総まとめ	美容技術理論Ⅱ 総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎理論Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	基礎理論Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論1 美容技術理論2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」について正しい知識を習得する。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	試験30% 小試験20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小松田 健治	実務経験		○	
実務内容	美容室にてスタイリストとして4年勤務。美容師の経験を活かし、技術理論を現場での実務に合わせて授業展開を行う。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	美容技術理論Ⅰ 序章・1章	美容技術理論を学ぶにあたって・美容道具 重点項目振り返り
2	美容技術理論Ⅰ 2章・3章	シャンプー・ヘアデザイン 重点項目振り返り
3	美容技術理論Ⅰ 4章・5章	ヘアカッティング・パーマメントウェービング 重点項目振り返り
4	美容技術理論Ⅰ 6章・7章	ヘアセッティング・ヘアカラーリング 重点項目振り返り
5	美容技術理論Ⅰ 総まとめ	美容技術理論Ⅰ まとめを行う
6	対策	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
7	まとめ	まとめを実施する 美容技術理論Ⅰ・Ⅱ の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
9	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説

10	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
11	まとめ	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
12	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅰ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅰ - Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理1 衛生管理2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」について正しい知識を修得する。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	試験30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小松田 健治	実務経験		○	
実務内容	美容室にてスタイリストとして4年勤務。美容師の経験を活かし、衛生管理を現場での実務に合わせて授業展開を行う。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1編 公衆衛生 1章 公衆衛生の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れ 筆記試験の問題形式・問題数・問題傾向の説明 「公衆衛生の意義と課題」「公衆衛生発展の歴史」「理容師・美容師と公衆衛生」「保健所と理容業・美容業」の復習
2	1編 公衆衛生 2章 保健①	「母子保健」「成人・高齢者保健」①の復習
3	1編 公衆衛生 2章 保健②	「成人・高齢者保健」②「精神保健」の復習
4	1編のまとめ 2編 環境衛生 1章 環境衛生①	単元テストを実施→振り返り・解説 「環境衛生の概要」「空気環境」の復習
5	2編 環境衛生 1章 環境衛生②	「衣服・住居の衛生」「上下水道と廃棄物」の復習
6	2編 環境衛生 2章 環境衛生③	「衛生害虫とネズミ」「環境保全」の復習

7	2編のまとめ 3編 感染症 1章 感染症の総論①	単元テストを実施→振り返り・解説 「人と感染症」の復習
8	3編 感染症 1章 感染症の総論②	「病原微生物」の復習
9	感染症の総論①のまとめ 3編 感染症 1章 感染症の総論③	感染症の総論① 単元テストを実施→振り返り・解説 「感染症の予防」の復習
10	感染症の総論②のまとめ 3編 感染症 2章 感染症の各論①	感染症の総論② 単元テストを実施→振り返り・解説 「空気・飛沫を介して感染する感染症」の復習
11	3編 感染症 2章 感染症の各論②	「飲食物を介して感染する感染症」の復習 「血液等を介して感染する感染症」の復習
12	3編 感染症 2章 感染症の各論③	「動物・節足動物を介して感染する感染症」の復習 「具体的な対策の例」の復習
13	感染症の各論のまとめ 3編の総まとめ	感染症の各論 単元テストを実施→振り返り・解説 3編の総まとめを実施する
14	試験	試験を実施する
15	総合授業	試験を返却→振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅰ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅰ - Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理1 衛生管理2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」について正しい知識を修得する。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	試験30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小松田 健治	実務経験	○		
実務内容	美容室にてスタイリストとして4年勤務。美容師の経験を活かし、衛生管理を現場での実務に合わせて授業展開を行う。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論①	「消毒法とは」「消毒の意義」の復習 「理容・美容の業務と消毒との関係」の復習
2	第4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論② 消毒法総論まとめ	「消毒法と適用上の注意」の復習 単元試験を実施→振り返り・解説
3	第4編 衛生管理技術 2章 消毒法各論①	「理学的消毒法・化学的消毒法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習
4	第4編 衛生管理技術 2章 消毒法各論② 消毒法各論まとめ	「理学的消毒法・化学的消毒法の消毒方法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習 単元試験を実施→振り返り・解説
5	第4編 衛生管理技術 3章 消毒法実習①	「各種消毒薬」（消毒液の概要、器具の使い方、常備しておくよい消毒薬と希釈液の濃度、消毒薬希釈法）の復習
6	第4編 衛生管理技術 3章 消毒法実習②	「理容所・美容所の消毒の実際」①（理容所・美容所における消毒の原則、消毒設備、器具類の消毒法、理容師・美容師の手指の消毒） 「理美容所の清潔法の実際」②（清潔保持と清掃、洗剤による清浄法、洗い場の構造と清潔保持、清掃、刈り取った毛の処理、ふた付き汚物箱などの消毒、ハエやカなどの駆除）

7	消毒法実習まとめ 第5編 衛生管理の実践例 1章 衛生管理要領①	単元試験を実施→振り返り・解説 第1 目的～第4 衛生的取り扱い等①
8	第5編 衛生管理の実践例 1章衛生管理要領②	第1 目的～第4 衛生的取り扱い等② 第5 消毒～第6 自主的管理体制
9	衛生管理の実践例まとめ 4編の総まとめ	単元試験を実施→振り返り・解説 まとめを実施する。振り返り・解説
10	試験	試験を実施する
11	国試過去問演習①	試験を返却→振り返り・解説 美容師国家試験過去問の演習と解説
12	国試過去問演習②	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	国試過去問演習③	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	国試過去問演習④	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ - Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	保健1 保健2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域（2編皮膚科学）に関する正しい知識を習得する。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の習得を目指す。				
評価基準	試験30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 和平	実務経験		○	
実務内容	病院薬剤師として5年保険調剤薬剤師として1年勤務。 外来患者さん向けの講習等の経験を基に教授する				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	人体の構造および機能の復習 (第1章～2章)	頭部・顔部・頸部の体表解剖学、骨格系の演習（国家試験過去問題）と解説
2	人体の構造および機能の復習 (第3章～4章)	筋系、神経系の演習（国家試験過去問題）と解説
3	人体の構造および機能の復習 (第5章～7章)	感覚器、血液、循環器系の演習（国家試験過去問題）と解説
4	人体の構造および機能の復習 (第8章～9章)	呼吸器系、消化器系の演習（国家試験過去問題）と解説
5	皮膚科学（第1章）	皮膚の構造
6	皮膚科学（第2章）	皮膚付属機関の構造 1項 毛

7	皮膚科学（第2章～3章）	皮膚付属器官の構造 2項脂腺 3項汗腺 4項爪皮膚の循環器系と神経系
8	皮膚科学（第4章）	皮膚と付属器官の生理機能
9	総まとめ	試験を実施する
10	皮膚科学（第5章）	皮膚と皮膚付属器官の保健
11	皮膚科学（第6章）	皮膚と皮膚付属器官の疾患 1項 皮膚の異常と病態 2項皮膚炎・湿疹・3項 蕁麻疹・4項 薬疹 5項 口唇の疾患
12	皮膚科学（第6章）	皮膚と皮膚付属器官の疾患 6項温熱・寒冷による皮膚障害 7項角化異常による皮膚疾患 8項 色素異常による皮膚疾患 9項 血管腫 10項 脂腺母斑 11項 下肢静脈瘤 12項 分泌異常による皮膚疾患
13	皮膚科学（第6章）	皮膚と皮膚付属器官の疾患 13項 化膿菌による皮膚疾患 14項ウイルスによる皮膚疾患 15項 真菌による皮膚疾患 16項 衛生害虫による皮膚疾患 17項 感染症の皮膚予防 18項 毛と爪の疾患 19項 皮膚の腫瘍
14	総まとめ	試験を実施する
15	解説 皮膚科学（第6章）	振り返り・試験解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ - Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	保健1 保健2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域（2編皮膚科学）に関する正しい知識を習得する。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の習得を目指す。				
評価基準	試験30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 和平	実務経験		○	
実務内容	病院薬剤師として5年保険調剤薬剤師として1年勤務。 外来患者さん向けの講習等の経験を基に教授する				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	皮膚科学の復習（第1～2章）	皮膚の構造と皮膚の付属器官の構造の演習と解説
2	皮膚科学の復習（第2章～4章）	皮膚の付属器官の構造と循環器系と神経系の演習と解説
3	皮膚科学の復習（第5章）	皮膚と付属器官の保健の演習と解説
4	皮膚科学の復習（第6章）	皮膚と付属器官の疾患の演習と解説
5	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
6	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
7	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
8	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
9	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習

10	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
11	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
12	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
13	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
14	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
15	国家試験対策	国家試験前重要ポイント復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ - Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	香粧品化学 1 香粧品化学 2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容器具や香粧品等に関する化学的知識を通し、美容を適切に行う能力と態度を育てる。 「美容技術理論」、及び「美容実習」と関連させながら、実地的な知識を習得する。				
到達目標	美容の香粧品化学・美容機器・香粧品の適正な取扱いができるように、化学の基本原理や応用ができる。				
評価基準	試験：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 和平	実務経験		○	
実務内容	病院薬剤師として5年保険調剤薬剤師として1年勤務。 外来患者さん向けの講習等の経験を基に教授する				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1編 第1章：香粧品総論 第2章：香粧品を使用する際に気を付けること	香粧品の社会的意義を踏まえ、その有効性と安全性を確保するための国による規制やメーカーの対応などから、使用する際の注意、その他
2	第3章：香粧品の成り立ち 「水と親水性溶媒」	溶質と溶媒、有機・無機化合物、アルコールの種類と特徴のまとめ
3	第3章：香粧品の成り立ち 「油性原料」「界面活性剤」	油性原料（油脂、ロウ類、炭化水素、高級脂肪酸、高級アルコール、シリコン油など） 界面活性剤の種類と性質
4	第3章：香粧品の成り立ち 「高分子化合物」「色材」	高分子化合物（天然・半合成・合成） 色材（無機顔料・タール色素など）
5	まとめ総合および中間試験	1～4回までの総復習および中間試験
6	第3章：香粧品の成り立ち「天然色素」「香料」「配合原料」	天然色素、香料、配合原料（防腐剤・紫外線吸収剤・酸化防止剤・収れん剤など）合成樹脂など

7	第2編 第1章：スキンケア製品①	クレンジング用化粧品・コンディショニング用化粧品（クリーム・乳液を含む）とエモリエント剤の復習
8	第2編 第1章：スキンケア製品②	トリートメント用化粧品・サンケア製品・美白用化粧品・ニキビ用化粧品・打粉類・パック剤
9	第2編 第2章：メイクアップ製品	ベースメイクアップ製品、アイメイクアップ製品、まつ毛ケア製品、ネイルメイクアップ製品
10	第2編 第3章：ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品①	ヘアクレンジング用化粧品、ヘアコンディショニング用化粧品、ヘアスタイリング料・総復習
11	第2編 第3章：ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品②	パーマ剤（パーマの原理、分類など）
12	第2編 第3章：ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品③	ヘアカラー製品・スカルプケア製品
13	まとめ総合および期末試験	6回から12回までの総復習および期末試験
14	試験解説および総復習	期末試験の解説および総復習
15	前期総まとめ	前期総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ - Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	化粧品化学 1 化粧品化学 2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容器具や化粧品等に関する化学的知識を通し、美容を適切に行う能力と態度を育てる。 「美容技術理論」、及び「美容実習」と関連させながら、実際の知識を習得する。				
到達目標	美容の化粧品化学・美容機器・化粧品の適正な取扱いができるように、化学の基本原理や応用ができる。				
評価基準	試験：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 和平	実務経験		○	
実務内容	病院薬剤師として5年保険調剤薬剤師として1年勤務。外来患者向けの講習等の経験を基に教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期内容確認	前期で学習した内容を総復習しながら、不十分な範囲などを補足する。
2	化学範囲補充	教科書化学範囲（関連事項）について補足授業
3	化粧品化学総合①	化粧品化学の重要項目の復習と演習および解説
4	化粧品化学総合②	化粧品化学の重要項目の復習と演習および解説
5	化粧品化学総合③	化粧品化学の重要項目の復習と演習および解説
6	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説

7	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説
8	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説
9	まとめ総合および期末試験	期末試験（全範囲）
10	試験解説および総復習	期末試験の解説および総復習
11	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
12	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
13	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
14	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
15	国家試験対策	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ - Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	関係法規・制度 1 関係法規・制度 2 (美容)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、及びその他の美容業の関連法規に関する知識の習得を図る。				
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる。				
評価基準	試験(小テスト等含む): 75% 授業態度(提出物等含む): 25%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中村 真弓	実務経験	○		
実務内容	中学校教諭1種免許(社会)取得し、高等学校での教員歴3年の経験を基に教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 第1章・第2章の復習	国家試験における関係法規の出題数や傾向の説明成績・評価の説明 第1章・第2章の復習
2	第3章の復習	第3章1節～3節「美容師になるまで」の復習
3	第3章の復習	第3章3節「美容師に求められる義務」～「管理美容師」の復習
4	第3章 理容師法・美容師法 第4節	美容所の開設に必要な届出・検査
5	第3章 理容師法・美容師法 第4節	開設者が求められる義務および美容所以外での業務
6	第3章 理容師法・美容師法 第5節	立入検査と環境衛生監視員

7	まとめ	まとめを行う
8	解説・まとめ	振り返り・解説
9	第3章 理容師法・美容師法 第6節	違反者に対する行政処分
10	第3章 理容師法・美容師法 第7節	違反者に対する罰則
11	第4章 関連法規	美容業の衛生に関する関連法規
12	第4章 関連法規	美容業の振興に関する関連法規
13	第4章 関連法規	美容業の雇用、消費者保護に関する関連法規
14	まとめ	まとめを行う
15	解説・総まとめ	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ - Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	関係法規・制度 1 関係法規・制度 2 (美容)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容業の関連法規に関する知識の習得を図る。				
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる。				
評価基準	試験(小テスト等含む): 75% 授業態度(提出物等含む): 25%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中村 真弓	実務経験	○		
実務内容	中学校教諭1種免許(社会)取得し、高等学校での教員歴3年の経験を基に教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 第2章の復習	ワークブックを用いて問題演習
2	第3章の復習(1)	ワークブックを用いて問題演習
3	第3章の復習(2)	ワークブックを用いて問題演習
4	第3章の復習(3)・第4章の復習(1)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習
5	第4章の復習(2)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習
6	まとめ	まとめを行う
7	解説・まとめ	振り返り・解説
8	総復習(1)	国家試験過去問演習等
9	総復習(2)	国家試験過去問演習等

10	総復習(3)	国家試験過去問演習等
11	総復習(4)	国家試験過去問演習等
12	総復習(5)	国家試験過去問演習等
13	まとめ	まとめを行う
14	解説・まとめ	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅴ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	運営管理・文化論		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家試験合格レベルの知識・技術の習得を目指し学習に取り組む。				
到達目標	国家試験合格レベルの知識・技術を習得することができる。				
評価基準	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	和田 夏子 他1名	実務経験	○		
実務内容	13年間デザイン会社に勤務し、デザイン・イラスト制作に携わる。現在フリーランスで講師とイラストレーターとして活動。現場での経験を踏まえ美容師国家試験合格に向けて分かりやすく授業展開を行う。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
2	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
3	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
4	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
5	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
6	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
7	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
8	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
9	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策

10	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
11	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
12	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
13	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
14	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策
15	国家試験筆記対策	国家試験筆記対策

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プロアクティブⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	まつ毛エクステンション教材 美容技術理論1、2 運営管理、文化論、国家試験実技教材		出版社	日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家試験課題にも取り組みつつ、国家資格を活かした技術を学ぶ。				
到達目標	国家試験課題の学びとアイラッシュ技術を習得することができる。				
評価基準	試験30%・小テスト30%・授業態度20%・提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石塚 順子	実務経験	○		
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして30年勤務をした実務経験を基に、マッサージの実技を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 国家試験筆記対策	自己紹介・プロアクティブについて・ルール・流れ・用具配布・ワゴンセッティング 国家試験筆記対策
2	まつ毛エクステンション概要 国家試験筆記対策	実技/道具ラベル貼り・ワゴンセッティング・かき分け 国家試験筆記対策
3	まつ毛エクステンション概要 国家試験筆記対策	実技/道具ラベル貼り・ワゴンセッティング・かき分け 国家試験筆記対策
4	衛生管理 国家試験筆記対策	実技/ワゴンセッティング・かき分け・装着 国家試験筆記対策
5	衛生管理 国家試験筆記対策	実技/ワゴンセッティング・かき分け・装着 国家試験筆記対策
6	衛生管理 国家試験筆記対策	実技/ワゴンセッティング・かき分け・装着 国家試験筆記対策
7	衛生管理 国家試験筆記対策	実技/ワゴンセッティング・かき分け・装着 国家試験筆記対策
8	皮膚の構造・アレルギー 国家試験筆記対策	座学、実技/シートタイプ装着 国家試験筆記対策
9	眼の構造 国家試験筆記対策	座学、実技/テーピング 国家試験筆記対策

10	眼の病気 国家試験筆記対策	座学、実技/テーピング 国家試験筆記対策
11	まつ毛の構造 国家試験筆記対策	座学、実技/装着、リムービング練習 国家試験筆記対策
12	カウンセリング 国家試験筆記対策	座学、実技/装着、リムービング練習 国家試験筆記対策
13	確認まとめ	実技/確認まとめ 国家試験筆記対策
14	衛生管理 国家試験筆記対策	実技/ワゴンセッティング・かき分け・装着 国家試験筆記対策
15	衛生管理 国家試験筆記対策	実技/ワゴンセッティング・かき分け・装着 国家試験筆記対策

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プロアクティブⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	45
使用教材	まつ毛エクステンション教材 美容技術理論1、2 運営管理、文化論、国家試験実技教材		出版社	日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家試験課題も取り組みつつ、国家資格を活かした技術を学ぶ。				
到達目標	国家試験課題の学びとアイラッシュ技術の習得。				
評価基準	試験30%・小テスト30%・授業態度20%・提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	今村 文美	実務経験	○		
実務内容	現役美容師。現場での経験を活かして即戦力となる考え方や技術を学生へ教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 国家試験実技課題	スケジュール確認 ワインディング・オールウェーブ・カット
2	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
3	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
4	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
5	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
6	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
7	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
8	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
9	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット

10	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
11	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
12	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
13	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット
14	国家試験実技課題 まとめ	ワインディング・オールウェーブ・カット
15	国家試験実技課題	ワインディング・オールウェーブ・カット